

# 平成 27 年度事業報告について

平成 28 年 6 月

公益財団法人 大阪市博物館協会

## 平成27年度事業報告について

### 1 はじめに

平成27年度、大阪市博物館協会は設立6年目、公益財団法人としては4年目であった。また、大阪市から受託している博物館・美術館4館の管理運営は、大阪城天守閣を含む5館の管理運営をしていた平成22～25年度（4年）、26年度（1年）に続き、平成27～31年度（5年）の指定管理期間の内1年目を終えた。

大阪市の博物館の経営に関しては、国内でも傑出した博物館群を擁するという大阪市の優位性に着目し、これを文化発信、都市魅力戦略の柱として位置づけるべく、これまでの異なる団体による経営形態の一元化を図り、より効率的、効果的な新たな経営形態を目指してきた。

当協会は平成27年度からは、大阪歴史博物館、大阪市立自然史博物館、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館の4館の指定管理者制度における管理代行を行っている。そして、埋蔵文化財発掘調査事業を実施している大阪文化財研究所も含めて各種の事業を施設ごとに、また相互に連携しながら実施しているが、ここでは公益財団法人への移行を認定された際の「協会事業の位置付け」と平成27年度までの「協会経営計画」を再確認した上で、協会の「平成27年度の事業」について報告する。

#### 1. 協会事業の位置付け

協会事業を「公益目的事業」「収益事業等」として位置づけ、平成24年4月から公益財団法人として事業を実施している。

##### (1) 公益目的事業

この事業については次の9事業で構成されており、隣接する分野の事業を相互に連携し総合力を発揮することがより効果的であることが位置付けられている。

- ① 埋蔵文化財の発掘調査と保存科学分析事業（受託事業）
- ② 文化財や博物館関係資料の調査研究事業（自主事業）
- ③ 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用事業（自主事業）
- ④ 文化財等資料を活用した展示・公開事業（自主事業）
- ⑤ 講座等による教育普及や人材育成事業（自主事業）
- ⑥ 体験活動事業（自主事業）
- ⑦ その他活動（自主事業）
- ⑧ 文化財関連施設管理・活用事業（受託事業）
- ⑨ 大阪市立博物館・美術館管理運営事業（指定管理による受託事業）

##### (2) 収益事業等

- ① 収益事業

施設の一部を売店・食堂等として使用することで、来館者サービスの向上やその収益を公益目的事業に充てることを目的とする事業

- ② その他の事業（相互扶助等事業）

友の会会員に対して行う講演会等を通じて、友の会活動の推進や会員の美術・東洋陶磁に関する公益目的事業に対する理解を深めることを目的とする事業

#### 2. 協会の経営計画

経営計画は平成23年9月に策定され、「団体のビジョン」「経営目標」等が定められている。

## (1) 団体のビジョン

- 協会の設置目的を実現するため、次の4つの基本方針の下で活動することとしている。
- ① 大阪市の博物館・美術館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力を創出する。
  - ② 都市大阪にふさわしい、さまざまな利用者ニーズに応えられる博物館をめざす。
  - ③ 大阪市の博物館・美術館の相互連携によって総合力を発揮し、都市大阪の魅力の発信拠点をめざす。
  - ④ 30年を越える遺跡の考古学的調査を活かした確かな知識と技術にもとづき、文化財の幅広く総合的な調査研究を行い、その成果を広く発信する。

## (2) 経営目標

博物館5施設の指定管理者として、上記のビジョンに沿って、平成23年度から平成27年度までの5カ年の目標を5点掲げて活動することとしている。

### 目標1 指定管理5施設全体の常設展入館者数の増加

〔27年度目標〕600千人（2,160千人）

〔27年度実績〕657千人

### 目標2 各館の事業成果や広く国内外の作品を紹介する特別展の充実

〔27年度目標〕年間で13本（年間で15本程度）

〔27年度実績〕12本

### 目標3 講演会や体験学習等を通じた資料や研究成果の積極的公開・活用

〔27年度目標〕年間525回・参加80,000人（年間400回・参加7万人）

〔27年度実績〕544回、71,057人

### 目標4 指定管理5施設全体での学校利用の促進

〔27年度目標〕延べ1,350校（延べ3,300校）

〔27年度実績〕延べ1,035校

### 目標5 当協会所管の各館並びに（公財）大阪科学振興協会・大阪市立大学など関係機関との連携事業の展開

〔27年度目標〕年間140件（年間80件）

〔27年度実績〕147件

※27年度目標は外郭団体評価委員会の27年度目標数値。

( )は大阪城天守閣を含んだ23年度からの経営目標数値。

## 【大阪市博物館協会 基本方針】

1. 各館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力を創出します。
2. 都市大阪にふさわしい、さまざまな来館者に応えられる博物館をめざします。
3. 相互の連携によって総合力を発揮し、都市大阪の魅力の発信拠点をめざします。
4. 点検・評価を行い、ニーズに則した事業の実施と効率的な運営をめざします。

## 2 大阪市博物館協会の概況と取り組み

### I 概 况

当協会は平成 27 年度において、指定管理施設の常設展入館者数の増加など、5 つの経営目標を掲げ、その達成に向けて取り組んできた。

まず博物館・美術館等の常設展入館者数は、インバウンドの影響により大阪歴史博物館の来館者が大幅に増加したことなどによって、目標を大きく上回る結果となった。なお、特別展の開催回数は市立美術館をはじめとした 3 館の工事休館等の影響もあり、僅かながら目標には達していないものの、教育普及事業など、講演会や体験学習等は昨年を超える実施実績となった。但し、その参加人数総数については目標を下回る結果となった。

また博物館・美術館等への学校団体利用については、児童・生徒数の自然減に加え、校外学習に充当できる時間の減、観光バス料金の値上げ等により減少傾向が止まらない状況にあるが、平成 27 年度については平成 26 年度並みの利用を得ることができた。

一方で、大阪市立大学との包括連携協定に基づく連携事業など、各種の連携事業についてはこれまでの実績に加え、各館所の関係先との日常的な取り組みにより目標値を超える事業を実施することができた。

平成 27 年度の決算状況について、経常収益・経常費用ともに平成 26 年度決算額から大幅に減少した。これは、平成 26 年度をもって大阪城天守閣の指定管理が終了したことに伴うものである。それ以外では、経常収益において、大阪文化財研究所における文化財調査受託収益が受託件数等の減少に伴い前年度より減となったものの、博物館・美術館 4 館の観覧料収益はインバウンドの影響により前年度より増となった。また、経常費用は、一部の館において工事休館があったことから、光熱水料費や委託料が減となった。

こうしたことなどから、経常収益と経常費用の差引である当期経常増減額は、前年度約△1 億 1 千 2 百万円から平成 27 年度は約△6 千 2 百万円と改善された。

表：各館の入館者数

|     |      | 大阪歴史博物館 | 大阪市立<br>自然史博物館 | 大阪市立<br>美術館 | 大阪市立<br>東洋陶磁美術館 | 合計        |
|-----|------|---------|----------------|-------------|-----------------|-----------|
| 常設展 | 26年度 | 267,962 | 207,526        | 75,509      | 56,805          | 607,802   |
|     | 27年度 | 339,200 | 214,822        | 39,005      | 64,156          | 657,183   |
| 特別展 | 26年度 | 69,462  | 120,120        | 214,131     | 56,805          | 460,518   |
|     | 27年度 | 60,744  | 115,205        | 164,950     | 53,821          | 394,720   |
| 地下展 | 26年度 | —       | —              | 289,873     | —               | 289,873   |
|     | 27年度 | —       | —              | 312,863     | —               | 312,863   |
| 小計  | 26年度 | 337,424 | 327,646        | 579,513     | 113,610         | 1,358,193 |
|     | 27年度 | 399,944 | 330,027        | 516,818     | 117,977         | 1,364,766 |

館蔵品の収集では、寄付による収集が中心となっている。大阪歴史博物館では 4,988 点の寄付を受け、27 年度末館蔵品総数 136,517 点。自然史博物館では、84,542 点の寄付を受け、27 年度末総資料数 164 万 4,633 点。美術館では、合計 18 件の寄付を受け、27 年度末館蔵品総数 8,373 件。東洋陶磁美術館では 866 点の寄付を受け、27 年度末館蔵品総数 6,879 点となった。また、3 月には、大阪歴史博物館の間重富関係資料の重要文化財指定を含む文部科学大臣への文化審議会答申が出された。

協会としては、平成 28 年度は指定管理施設へのインバウンドを含めた来館者増加に向けて、文化庁補助金を活用した多言語化、広報の強化をはかり、大阪文化財研究所の発掘調査受託をより積極的に獲得し、効果的・効率的な経営に努めてまいりたい。

## II ミュージアム魅力発信事業

協会では、経営計画に基づき、協会各館・研究所が相互に連携した事業、外部の関係機関と連携した事業、協会としての共同広報事業などを「ミュージアム魅力発信事業」として実施するほか、民間事業者等と各館所との連携について推進している。平成 27 年度は、昨年度の博物館・美術館ポータルサイトや SNS アカウントの開設に続き、新たな広報展開として、広報紙「Osaka Museums (大阪ミュージアムズ)」の創刊に民間事業者とともに取り組んだ。その他の民間事業者との連携では、Beacon システムを用いた展示案内の実証実験（東洋陶磁美術館）の準備作業に着手し、大阪商工会議所の観光ブランド商談会に参加（大阪歴史博物館）し、コンテンツビジネスとしての展開をめざした。

学校連携・大学連携では、小中学校の博物館利用についての実態調査を実施し、市立大学との連携事業としては新たに「高校生のための博物館の日」を実施した。また、外部資金獲得では、平成 28 年度の文化庁補助金申請を実施し条件付採択の結果を得た。

### 1. 広報・発信事業

平成 27 年度は、新たな広報媒体として広報紙「Osaka Museums (大阪ミュージアムズ)」を 10 月に創刊した。民間事業者との連携で発行するフリーペーパーで、協会が運営する各館所の魅力、楽しみ方や周辺情報などを広く発信し、新たな利用者、博物館・美術館ファンを増やすことを目的に、図書館、区役所等の公共施設、生涯学習施設のほか、ホテル・銀行や大型量販店をはじめとした商業施設等にも設置・配布した。発行部数は 4 万部、3 月には第 2 号を刊行した。

各館・所の広報活動を支援するため 26 年度に開設したポータルサイト「Osaka Museums」、および同ブランドの SNS (Facebook・Twitter) により、引き続き大阪市ホームページをはじめ、大阪観光局、大阪商工会議所、交通局、その他機関等とのリンク拡充の環境醸成を図った。

平成 25 年度当初に協会ホームページのリニューアルによりアクセス数は前年度比約 1.5 倍の月平均 3,517 件と増加したが、平成 26 年度のアクセス数は月平均 4,984 件とさらに 25 年度比 1.4 倍の増加となった。27 年度は 11,111 件となり 26 年度比 2.2 倍を数え、総アクセス数も 133,329 件となった。これは、ポータルサイト開設以降の訪問数、SNS 経由のアクセスの増加が堅調に伸びていることを示している。今後もアクセス数増の取組みとして、効果的で良質な記事投稿と、関係施設等とのリンク拡充や SNS の支持者の裾野を広げる活動が重要となっている。

共同広報事業の一環として 26 年度に作成した総合案内パンフレット「Osaka Museums Guide」およびポストカード「OSAKA MUSEUMS CARD COLLECTION」については、パンフレットを大阪観光案内所・各博物館施設等に設置・配布し、ポストカードは交通局の夏休み事業との連携企画や各施設のイベント等で配布し、各館所の広報に活用した。

また、各館・所の広報担当者を招集する「広報担当者会議」を、27年度から新たに「今後の協会の広報機能のあり方を協議することを目的」とし、「具体的には、実態把握や効果検証、協会内外機関との連携等による戦略的かつ効果的な広報事業企画・検討などを行う」会議と位置付けた。27年度は5回開催し、主として広報企画として新たに発刊した広報紙の検討、各館・所の広報手法等について情報交換を行うとともに、各館・所の広報担当者のスキルアップ、広報活動に有用な情報の共有化を図り、総務部事業企画課も含めた連携体制による博物館施設等の魅力発信強化を目指した。

## 2. 民間事業者との連携、民間ノウハウの活用

民間事業者との連携については、上記の広報紙の創刊に民間事業者とともに取り組んだほか、他の民間事業者との連携では、Beaconシステムを用いた展示案内の実証実験（東洋陶磁美術館）の準備作業を実施した（4月実証実験開始）。また、11月6日には大阪商工会議所の観光ブランド商談会に大阪歴史博物館が参加し、コンテンツビジネスとしての展開をめざした。美術館では、障がい者特別鑑賞会を、三菱商事株式会社と連携して特別展「肉筆浮世絵展」開催時の5月30日に実施した。

## 3. 「大坂の陣400年天下一祭」と展覧会等の取り組み

平成26・27年の2年間、府市や府内の市町村において「大坂の陣400年天下一祭」が開催され、協会としても、都市大阪の魅力を国内外に強力に発信する機会として積極的に参画した。27年度は、各館の展観事業として、大阪歴史博物館で大坂の陣400年特別展「大坂—考古学が語る近世都市—」（4月18日～6月8日）、東洋陶磁美術館において、大坂の陣400年記念事業 特別展「黄金時代の茶道具—17世紀の唐物」（4月4日～6月28日）を開催し参加した。

## 4. 教育普及に関する連携

### （1）小・中学校との連携

小中学校との連携については、平成25年度・26年度に引き続き、「授業に役立つミュージアム活用ガイド」増補版を、主に市内の校園長会や教育研究会との連携を深め、積極的に学校団体利用の促進を図った。校外学習の決定時期である3月に合わせて、27年度末にも増刷し、大阪府内の学校への情報提供の取り組みを進めた。

平成27年度の学校団体利用総数は、市外からの利用を中心に減少傾向にある中で、平成26年度からほぼ横ばいとなった。館によっては、増加している館・減少している館があり、増減にばらつきがあった。平成27年度は、学校団体利用の減少原因の調査を実施した。減少原因としては、現行の学習指導要領が順次実施されてから、教科学習時間の確保のために、校外学習のとりやめ・見直しが行われていること、観光バスの値上がりによって、遠方へのバスでの校外学習を控える傾向にあること、企業の校外学習誘致の活発化などが見られた。学習指導要領では博物館等施設の活用が述べられているということからも、博物館の展示や資料を使った教科学習の効果など、学校による博物館利用の利点を知らせる継続的な広報活動が今後も必要である。

平成27年度は、昨年度に引き続き、教育委員会や教育センターとの連携事業として、「教

員のための博物館の日」（8月5日）を大阪歴史博物館で実施した。これは「小中学校の博物館利用の促進」と「学校教育の支援」を推進するため、各館・所の取り組みを紹介し、夏休み期間中に教員研修の一環として開催したものである。8月7日には自然史博物館主催としても開催した。学校との連携を進めるためには、継続性が必要であることから、平成28年度は大阪市立自然史博物館において実施する「教員のための博物館の日」（8月3日）を共催する予定である。市立美術館と連携した取り組みとしては、特別展「二科100年展」の開催期間中に小学校鑑賞学習を実施した。（10月、2校）

各館においては、中学・高校の職場体験・職業講話の受け入れも実施しており、大阪歴史博物館では8校59人、自然史博物館では大阪府内の8校11人を受け入れた。また大阪歴史博物館では、大阪市教育センターとの共催で「大阪市教員研修」（30人）を実施している。

## （2）高等学校・大学との連携

大学との連携については、引き続き大阪市立大学との包括連携協定に基づき、学芸員養成課程の博物館学3講座（前期：博物館経営論・博物館資料保存論、後期：博物館展示論）への学芸員の出講をはじめ、博学連携講座「幕末の摂海防備と台場跡」（市立大学文化交流センター、11月～12月、4回）、ミュージアム連続講座「海からの贈り物」（総合生涯学習センター、11月、3回）、シンポジウム「文化接触のコンテクストとコンフリクト」（大阪歴史博物館、12月4日、講演会）を共催し、学芸員の派遣、大学教員の招聘をおこなった。

包括連携協定の枠組みで共同企画したシンポジウムとしては、「大阪の縄文時代をさぐる」（大阪歴史博物館、10月31日、参加164名）を開催した。また市立大学の競争的資金により大学教員と学芸員が取り組む難波宮に関する共同研究およびその成果発表のシンポジウム「難波宮と大化改新Ⅲ」（市立大学田中記念館、2月20日、参加259名）を実施した。中国と韓国の研究者も招聘し、25・26年度にも実施し好評であった学術シンポジウムの集大成となった。

「高校生のための博物館の日」（8月11日、自然史博物館）は、新たな包括連携事業の取り組みである。高校生を対象に、自然科学を研究する大学院生が自らの研究について紹介し、自然史博物館の展示内容との関連も解説する試みであった。参加者は58名であったが、非常に高い関心を示す高校生の反応がみられる催しとなった。

キャンパスメンバーズ制度については、これまでの（公財）大阪科学振興協会に加えて、27年度から大阪城天守閣を指定管理する大阪城パークマネジメント共同事業体との3者による運用となった。25年度から継続する4校（1校の休止期間を含む）の参加を得たが、新たな参加校の獲得はできなかった。新規参加校の開拓、利用率アップの取組み等が今後の課題となっている。

また各館においては、大学の学芸員養成課程等の受け入れを実施しており、大阪歴史博物館では、博物館実習に11大学43人、見学実習に256人、自然史博物館では、博物館実習14大学のべ24名、美術館では博物館実習に24大学45名、インターン研修に2大学院2名（工芸）、東洋陶磁美術館では見学実習4大学145人を受け入れた。

## （3）博物館・その他機関との連携

ミュージアム連続講座2015「海からの贈り物—沈没船とさまざまな交流」（11月10日・

19日・26日)を大阪市立総合生涯学習センターで実施した。27年度は、大阪市立大学に加えて、大阪市教育振興公社と連携して3者での共催事業とした。東洋陶磁美術館の特別展「新発見の高麗青磁—韓国水中考古学成果展」に因み、大阪市立東洋陶磁美術館・大阪文化財研究所・大阪歴史博物館・大阪市立自然史博物館・大阪市立美術館および大阪市立大学から6名の講師が、海に関わる人・モノの交流について多様な視点から紹介した。

また、大阪歴史博物館では、NPO法人まち・すまいづくりとの共催の「うえまちコンサート」、NPO法人OSAKAゆめネットとの共催で「難波宮フェスタ2015」を開催したほか、大阪歴史学会との共催でシンポジウムを実施した。

自然史博物館では、特別展「たまごとたね」のミニ展示を、市立図書館と連携し、市立中央図書館をはじめとする市内各図書館11カ所(4月1日~9月2日)を巡回開催し、府立中央図書館(4月22日~5月10日)でも実施した。また「認定NPO大阪自然史センター」との連携により、博物館事業の充実にも努めた。

美術館では、「うえまちコンサート」をNPO法人まち・すまいづくりと連携して8月2日に、「なにわの日記念アトリエ澤野ジャズライブ」を浪速区と連携して3月27日に実施した。東洋陶磁美術館では、中央公会堂、中之島図書館、国立国際美術館、国際会議場等と連携し、水都大阪、中之島まつりなど中之島地域の活性化イベントに協力した。

大阪文化財研究所では、NPOやボランティアガイドなど市民団体と協働して「難波宮フェスタ2015」、「なにわの宮リレーウォーク」(第5弾)を開催、Webサイト「なにわまナビガイド」の情報更新・発信を行った。また、平野区役所・同区の市民団体とで実行委員会を組織し第13回「古代市」を実施した。

大河ドラマ「真田丸」大阪推進協議会(事務局・大阪観光局)へ協会として参加した。平成28年度には、大阪歴史博物館の特別展を中心に、協議会の連携も活用した広報展開をはかる予定である。

ナレッジキャピタルおよび大阪市教育振興公社との連携事業として、春・夏・秋に開催されるワークショップフェスへの各館所の出展調整に着手した。また、東洋陶磁美術館では、28年度に「ナレッジキャピタル超学校」を開催する。

## 5. 点検評価

平成25年度は外部評価委員会を開催しなかったが、平成26年度は1回(7月31日)開催し、平成24年度に「総合評価」として外部評価委員から受けた指摘内容についての各館・所における措置状況を報告し、改めて外部評価委員より各館・所における現状と今後について多岐にわたる指摘や助言を受けた。平成27年度は、今後の評価方法の検討、大阪市が策定作業に着手している「ミュージアムビジョン」の動向を注視しながら評価内容の検討をおこなった。

## 6. 外部資金の獲得

平成28年度文化庁補助金「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」について、大阪歴史博物館を中核館として、協会が運営する各館所および大阪新美術館建設準備室を中心に、大阪観光局、大阪国際交流センターを加えた実行委員会体制で申請を行った。申請内容は、「国際発信と多言語化」を中心とし、各館所のホームページ、パンフレット、展示解説等につい

て翻訳、改修等を実施する内容（申請額 15,040 千円）とした。3月 31 日付で文化庁より「条件付採択」の審査結果を得たので、平成 28 年度に再申請を行い、多言語化の具体的取り組みを進めていく。

公益財団法人 武田科学振興財団による「2014 年度 中学校理科教育進行奨励」を得て、26 年度に作成した中学校向きワークシート（自然史博物館・動物園・科学館をグループ活動で巡る内容、3 種）と施設の利用ガイドは、引き続き市立・市外中学校・高等学校への配布を行うほか、「教員のための博物館の日」など教員研修でも配布した。博物館協会ホームページからのダウンロード利用を可能とし、中学校の博物館施設利用の促進ツールの一つとして活用した。

また、平成 28 年度から更なる寄付金・協賛金の獲得をめざし、当協会のホームページに寄付金・協賛金の募集案内を掲載する予定である。

### 3 大阪文化財研究所事業

平成27年度のおもな発掘調査には、豊臣石垣公開プロジェクトの一環で調査した大坂城本丸跡金蔵地域があり、2回の現地公開を開催した。発掘調査報告書では『加美遺跡発掘調査報告VII』を刊行した。これは市営住宅建替えに伴う過去の発掘調査のうち報告書作成が未契約であった事業である。文化財の保存科学の研究と事業も順調に進め、成果を大阪歴史博物館や市民団体との連携による教育普及事業で活用し、大阪の歴史と文化財の周知を図った。

一方で大阪市域における発掘調査の受託は平成26年度に大きく減少し、経費削減と市外事業の受託など増収に努めたが、市域の状況は27年度さらに厳しくなった。

また、文化庁・岩手県の要請に応じて東日本大震災復興支援のため学芸員1名が1年間（公財）岩手県文化振興事業団に出向したほか、他の地域へも応援要請により数箇月から1年間にわたり複数の学芸員が出向した。

#### 1. 埋蔵文化財の調査及び報告書作成など

(1) 文化財調査受託事業（〔 〕は昨年度、個別の事業は一覧表参照）

平成27年度の発掘調査は契約件数38 [48] 件、調査面積3, 252 [3, 814] m<sup>2</sup>、受託額68, 994, 191 [137, 968, 660] 円（税抜）であった。前年比で受託件数は79%、面積は85%、金額は50%に減少した（面積は年度末契約の国独法関係1件（NW15-1次：2, 800m<sup>2</sup>）を除く）。発掘調査に報告書作成18, 704, 000 [22, 706, 000] 円を合わせた金額は8, 770万円弱 [1億6, 000万円強] で、前年比約55%に減少した。委託元の内訳は、大阪市64. 34 [27. 17] %、国関係0. 66 [0] %、大阪府0 [4. 31] %、民間35. 00 [68. 52] %であった。

公共事業、民間事業ともに受託額は少なく、平成26年度よりさらに減少し、経営的に厳しい状況が続いた。こうしたなかで、未契約のままであった市営住宅建替えに伴う発掘調査の報告書作成を大阪市教育委員会と契約し刊行した意義は大きい。同様の発掘調査が他に22件残り、引き続き報告書作成を通じて成果を公表することが必要である。

|     | 発掘調査受託事業 |         |              | 報告書作成受託事業 |         |              | 合計           |              |          |
|-----|----------|---------|--------------|-----------|---------|--------------|--------------|--------------|----------|
|     | 件数       | 面積      | 受託額（税抜）      | 件数        | 受託額（税抜） |              |              |              |          |
| 国関係 | 1        | ※2, 800 | 581, 000     | 0. 84%    | -       | -            | 581, 000     | 0. 66%       |          |
| 大阪府 | -        | -       | -            | 0.00%     | 0       | -            | -            | 0.00%        |          |
| 大阪市 | 1        | 459     | 37, 720, 191 | 54. 67%   | 1       | 18, 704, 000 | 100. 00%     | 56, 424, 191 | 64. 34%  |
| 民間  | 36       | 2, 793  | 30, 693, 000 | 44. 49%   | 0       | -            | 30, 693, 000 | 35. 00%      |          |
| 合計  | 38       | 3, 252  | 68, 994, 191 | 100. 00%  | 1       | 18, 704, 000 | 100. 00%     | 87, 698, 191 | 100. 00% |

※「国関係」の面積2, 800m<sup>2</sup>は調査開始直後のためH28年度事業報告に計上する予定

おもな調査成果には次のものがある。大坂城本丸の金蔵地区では、前年度発見された徳川期の舗装道路跡の延長部分を確認し、豊臣期詰ノ丸の石垣上部で絵図に記された櫓の存在を推定した。天王寺区上本町遺跡の調査では古代から中世にわたる正方位の溝が見つかり、難

波京条坊道路や坊間道路の側溝の可能性が指摘された。四天王寺旧境内遺跡北部の調査では、谷から豊臣期～徳川初期以前の鋳造関連資料が出土し、寺域で銅・鉄製品を生産していたと考えられた。他に北区長柄西一丁目では古墳時代後期の遺物がまとまって出土し、祭祀や大川北岸の開発が拡大する時期を示す資料となった。北区天満橋二丁目の同心町遺跡では近世の堤防跡とその基底から弥生時代の遺構が見つかった。同天満橋一丁目では弥生時代中期に遡る遺構と、豊臣期から近世を通じて進む一帯の開発状況などが判明した。これらの調査は小規模ながら、市域における地形の変遷と開発過程を示す成果を得ることができ、長年にわたって調査を継続し、成果を積み重ねる重要性を改めて示した。

報告書は『加美遺跡発掘調査報告VII』1冊を刊行し、約300箇所の全国の教育委員会や調査機関、大学などに配布した。昨年度刊行した『加美遺跡V』に続き加美遺跡では調査例の希少な弥生時代中期の墳丘墓に関する成果などをまとめている。

#### (2) 保存処理・分析事業

今年度の受託件数・受託額は昨年度よりも増加した。藤井寺市・堺市など大阪府下4件、田原本町・橿原市など奈良県下4件、そのほか島根県教委・松山市・今治市教委・総社市教委・南国市教委・松阪市教委・(公財)高知県文化財団・(公財)京都府埋蔵文化財センター・(公財)岩手県文化振興事業団など合計19組織41 [25] 件の事業を受託した。以上の保存処理事業の受託額は約2,830万 [約2,350万] 円である。

#### (3) 文化財関連施設の管理事業

大阪市立埋蔵文化財収蔵倉庫（平野区）・東淀川調査事務所（東淀川区）・西淀川収蔵倉庫（西淀川区）・常吉収蔵庫（此花区）で恒常的な出土遺物の管理を行い、約460箱の遺物収納コンテナの移動や、整理作業による収蔵遺物の系統的な管理を行った。なお、常吉収蔵庫は27年度末で廃止され、収蔵遺物は大阪市教育委員会により元市立鶴浜小学校へ移された。

### 2. 保存科学技術の開発と文化財など実資料への適用

他組織からの受託事業と並行して、大阪市内の出土品に対する保存処理を進めた。特に木器については大坂城下町跡出土品、難波宮跡出土木簡等、約500点の保存処理を終えた。また、中之島蔵屋敷跡出土金属製品などの保存処理を行い、大阪歴史博物館と共に「新発見！なにわの考古学2015」で公開した。加えて、1961年のNW14次調査で発見され、その後地中保存された難波宮跡瓦堆積遺構の保存状況を調査するとともに、整備計画検討委員会会議で今後の展示活用について提案した。市立美術館では収蔵品仮保管状況の温湿度調査に対応した。

改良を進めている木製文化財の保存技術について、韓国の国立海洋文化財研究所や国立光州博物館等にて、保存科学担当者と研究・技術交流を行った。また、熊本県で研究会を開催、日本文化財科学会等で研究発表を行った。奈良文化財研究所より依頼を受け、保存科学研究集会で講演を行う等、国内外の反響を呼んでいる。

### 3. 文化財に関する研究

科学研究費助成事業として基盤研究(B)・(C)各1件(直接経費360万円)が採択されたほか、基盤研究(A)の研究分担者1件があった。そのうちトレハロースを用いた海底遺跡など木製文化財の保存技術の改良は、国内だけでなく海外へも普及すべく研究を継続している。

また、大阪市立大学と難波宮の共同研究を継続し、シンポジウム「難波宮と大化改新Ⅲ」

を開催して成果の公表に努めた。

そのほかに学芸員の研究成果を公表するため『研究紀要』第17号を刊行し、全国約300の機関に配布した。

#### 4. 教育・普及事業

##### (1) 展示などをはじめとする資料活用

大阪歴史博物館と共に特別展「大坂の陣400年 大坂—考古学が語る近世都市—」(4/18~6/8)、特集展示「新発見！なにわの考古学2015」(10/21~12/27)、同「大坂出土の貿易陶磁」(H28/1/6~2/15)を開催した。大坂の陣400年天下一祭を冠した「大坂」展では、近世の器の変遷や都市の消費を支えた職人工房から発見されたモノづくりの資料など、膨大な量の出土品を網羅した。こうした特徴を最新成果から紹介した普及図書『大坂 豊臣と徳川の時代—近世都市の考古学—』を大阪歴史博物館ほかの学芸員と共に著で刊行した。「なにわの考古学」展では、平成26年度の発掘成果から長原遺跡の古墳時代木製鞍・四天王寺旧境内遺跡の鎌倉時代「四天王寺」文字文軒瓦・中之島蔵屋敷跡の江戸時代宝珠文鬼瓦などを展示したほか、『加美遺跡VI』掲載の弥生時代末～古墳時代初頭の周溝墓出土の大量の土器を一堂に集めた。「貿易陶磁」展では豊臣期～徳川期に輸入された中国・朝鮮・東南アジア各地の陶磁器を集め、諸外国と大坂との係りや大坂町人の旺盛な活動を明らかにした。

このほか、平野区「古代市」に合わせて「古代のクラフト展」を大阪市立クラフトパークで開催して長原遺跡の古墳時代資料を展示した。また、市内各地の公共・民間施設に設置された「街角ミュージアム」では36箇所2,119点の出土品を通年で公開したが、市民交流センター閉館にともない、同「すみよし北」の1箇所22点を年度末で終了した。

さらに、全国の博物館・美術館などの借用申請に対応した出土品は33 [20] 件543 [488] 点、出版目的などで提供した写真・図面は82 [80] 件201 [316] 点、資料調査や見学への対応は13 [22] 件であった。

##### (2) 講座などによる教育普及や人材育成

発掘現場の現地公開（大坂城跡2回4日間、合計4,855人）や、大阪歴史博物館と共に「金曜歴史講座（5回、757人）」と「大阪の歴史を掘る講演会（134人）」（「なにわの考古学」展関連行事）などを開催した。

「平野区歴史講座（大阪市コミュニティ協会）」、「平野住民大学講座（平野区画整理記念会館）」、「考古学連続講座（総合生涯学習センター）」、「すみよし北講座（市民交流センターすみよし北）」などの他団体が主催する講座に対し、企画や講師派遣を行った。また、考古学や文化財の研修や教育課程の講師として調査機関、大学などに学芸員を派遣した。

##### (3) 地域と連携したイベントなどの共催・出張展示

本年度もNPOやボランティアガイドなど市民団体と協働して「難波宮フェスタ2015」で講演会やワークショップを、平成23年から継続している「なにわの宮リレーワーク」（第5弾）で文化財探訪イベントを行った。文化財見学Webサイト「なにわ まナビガイド」ではボランティアガイド団体自らがイベント案内や活動情報を更新し、情報発信を行った。また、平野区役所および同区の市民団体とともに実行委員会を組織する第13回「古代市」でワークショップや展示解説を行った。

#### (4) 体験活動事業

平成27年度も史跡整備のための難波宮跡の発掘調査が実施されなかつたため、体験発掘は行っていない。史跡難波宮跡や難波宮調査事務所の資料展示室見学は29件164人に対応した。そのうち、大阪市内の小学生には展示室の見学以外に土器接合などの体験学習も実施した。

#### (5) 情報発信

発掘調査や出土品、シンポジウムなどの文化財に係る新聞報道は4回で、文化財情報誌『葦火』は6回（175～180号）各900部を刊行した。定期購読者は108 [127] 人であった。ホームページでは、従来のイベント案内や出版情報などに加えて、学芸員のプロフィール紹介、「出講・出演情報」、発掘報告書のPDF公開（『加美遺跡VI』を追加）など、新たなコンテンツを追加した（接続29, 977 [69, 427] 件／累計701, 891件）。また、文化財見学サイト「なにわまナビガイド」はサーバの障害期間があったため約3, 470 [8, 900] 人の利用者にとどまった。

#### (6) 関連資料の収集・管理

交換・贈呈により約2, 000 [2, 224] 冊の発掘調査報告書・普及図書が増加しており、順次受け入れ作業を進め、登録図書は88, 124 [87, 724] 冊となった。

#### (7) 他団体との連携

8年目となった全国埋蔵文化財法人連絡協議会の近畿ブロック（13団体）による「関西考古学の日2015」に参画し、講演会「お城の考古学」（兵庫県）、リーフレットによる共同広報、スタンプラリーなどを実施して教育普及事業の周知に努めた。

### 5. 博物館・美術館との連携

発掘調査の出土品と研究成果を活用し、特に大阪歴史博物館との特別展・特集展示や関連行事の開催、普及図書の編集・執筆で連携した。そのほか「ミュージアム連続講座2015」などの事業でも連携した。

### 6. 東日本大震災復興支援など学芸員出向

岩手県の要請に応え当協会から東日本大震災復興支援の埋蔵文化財調査のため担当者1名を1年間（公財）岩手県文化振興事業団へ派遣し、地域の貴重な文化財の保存と活用に寄与した（平成28年6月に文化庁長官の表彰予定）。また（公財）かながわ考古学財団（27年4月～継続中：1名）（公財）八尾市文化財調査研究会（26年10月～28年3月：1名、27年12月～継続中：1名）、（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団（27年4月～1年間：1名）、（公財）京都市埋蔵文化財研究所（27年8月～28年3月：1名）、（公財）枚方市文化財研究調査会（28年1月～継続中：1名）の要請に応え、発掘・整理作業の担当者として学芸員が出向した。なお28年度は、上記の岩手県・京都市へも各1名が継続して派遣されている。

## 4 大阪歴史博物館管理運営事業

大坂夏の陣およびその復興から 400 年という年にあわせ、特別展・特別企画展ではそれにちなんだ展示 2 本を実施したほか、大阪の知られざる文化遺産に着目した自主企画展 2 本を開催し、大阪の新しい魅力の発信に努めた。また、常設展・特集展示においては昨年に引き続き話題性の高い刀剣・刀装具や新収館藏品の公開に取り組み、インバウンドの増加もあって常設展示入館者数は昨年度比 28% 増の 289,061 名に達した。

### 1. 資料の収集、保管事業 ([ ] は昨年度)

寄付資料に関しては、資料収集方針にもとづき、「豊原国周 愛宕館芝浦八景」など、歴史資料 4,724 点、美術資料 8 点、民俗資料 1 点、芸能資料 1 点、建築資料 254 点、合計 4,988 点 [7,294 点] を整理・燻蒸し、収集・保管した。この結果、当館で保管する館蔵品は 136,517 点 [131,529 点] に達した。また館蔵資料の一部について必要な修復や保存処理を行った。

### 2. 展示事業

#### (1) 常設展示

常設展示「都市おおさかの歩み」では、後期難波宮跡出土の鳴尾などのほか、正倉院宝物公開の時期に合わせた天平裂や金銀錫荘唐太刀（正倉院写）など関連資料の展示、戦後 70 年に合わせた戦災焼失区域図の展示など、季節や時期、話題性を考慮して館蔵品・寄託品を適宜更新するなど、年間 39 回の展示替えに努めた。また、9 階では、大阪文化財研究所との連携により、ミニチュア製品・模造品（出土品）と実物資料（館蔵品）の対比展示を行った。それらに加えて外国人来館者の増加という状況も重なり、本年度の常設展の入場者は前年度比 28.23% 増の 289,061 人 [225,413 人] となった。展示解説は、土曜・日曜・祝祭日に実施し、1,415 人 [1,512 人] の参加を得た。

#### (2) 特集展示

特集展示室では、大阪市内の最新の発掘成果を紹介した「新発見！なにわの考古学 2015」や平成 13 年度から継続して収集してきた朝鮮通信使関係コレクションの全点収蔵に合わせて企画した「辛基秀コレクション 朝鮮通信使と李朝の絵画」のほか、「修復品・新収品お披露目展」・「中村順平と建築芸術教育」・「看板の世界 一館蔵コレクションから一」・「大坂出土の貿易陶磁」など館蔵品・寄託品を活用した年間 6 本の特集展示を開催し、大阪の歴史と文化の情報発信と再評価に努めた。

#### (3) 特別展示・特別企画展

27 年度の特別展としてはすべて学芸員の自主企画による展示 4 本を開催し、そのうち 1 本を他館へ巡回した。

特別展「大坂の陣 400 年 大坂—考古学が語る近世都市—」（平成 27 年 4 月 18 日～6 月 8 日 開催日数 45 日間）は、豊臣時代から徳川時代の大坂を考古学の発掘成果から語る企画で、大阪文化財研究所との共催によりこれまでの調査成果を一堂に集め、公開した点で注目を集めた。関連図書を一般書籍として作成し、書店ルートでの販売をおこなった。

特別企画展「道頓堀四百年記念 初世中村鴈治郎—上方歌舞伎の巨星—」（平成 27 年 7 月 1 日～8 月 23 日 開催日数 47 日間）は、平成 27 年が初世中村鴈治郎の没後 80 年に当たり、

四代目鷹治郎の襲名披露も行われ、大阪にゆかりの深い「中村鷹治郎」という名跡が改めて注目される年であることから、風姿に優れ、和事の名手として絶大な人気を博した初世中村鷹治郎の遺品などを展示し、芸能のまち大阪と道頓堀の文化を紹介した。

特別展「海峡を渡る布—初公開 山本發次郎染織コレクション ふたつのキセキー」（平成27年9月9日～10月18日 開催日数35日間）は、大阪新美術館建設準備室と協力し、同室が所蔵する山本發次郎蒐集のインド・東南アジア染織コレクションから138件を初公開し、収集の軌跡と奇跡的に戦火を免れて伝存したコレクションの魅力と意義に迫った。

特別展「唐画もん—武禅に閨苑、若冲も」（平成27年10月31日～12月13日 開催日数38日間 巡回展）は、江戸時代の絵画のうち中国絵画の影響を受けたいわゆる「唐画」を得意とした大坂の絵師から墨江武禅と林閨苑にスポットを当て、その作品を展示した。

知られざる大坂の絵師を紹介する企画として注目され、千葉市美術館への巡回も実現した。本年度特別展の観覧者は合計60,744人〔69,462人〕で、昨年度比87.4%にとどまった。

### 3. 調査・研究事業

難波宮と大阪学の研究を2本柱とし、「前期難波宮の官衙遺構についての基礎的研究」、「堀田コレクションの研究」、「鴻池家旧蔵名物裂についての研究」の3課題の共同研究を実施した。また基礎研究としては、「難波で発せられた改新詔にみえる駅制駅鈴をめぐって」、「大坂に関わる西国大名史料の基礎調査」、「大阪と江戸・東京との都市比較史研究」の3課題を実施した。研究成果については「研究紀要」などで発表し、「なにわ歴博講座」などをとおして市民に還元した。また昨年度に実施した共同研究「大坂の両替商錢屋佐兵衛家の研究と展示」の成果を「共同研究報告10」として刊行した。外部資金による研究では、科学研究費補助金610万円〔507万円〕を獲得し、基盤研究(B)1本、基盤研究(C)3本、挑戦的萌芽研究3本を行った。

### 4. 教育・普及事業、学習支援

教育普及事業は、市民の歴史学習を支援するためのものとして、学芸員による「なにわ歴博講座」や大阪文化財研究所との共催による「金曜歴史講座」のほか、近世大坂を題材とした古文書講座、渡来人をテーマにした連続講座、館長講座「館長と学ぼう 新しい大阪の歴史」、「なにわ考古学散歩 大坂の陣と復興の道のりを歩く」など多彩なメニューを実施し、時宜を得た話題や最新の研究状況を取りあげることで市民の学習意欲に応えた。また各特別展や特集展示においても、関連の内容でシンポジウム・トークイベント・講演会・コンサート・映画上映会・展示解説など多くの行事やイベントを開催した。これらの事業は合計94回を実施し、総計7,816人の参加者があった。

子どもを対象とした「わくわく子ども教室」では、「考古学者になってみよう」を4日間開催して17人〔39人〕の参加があり、常設展8階では毎月第2土曜の「和同開称の拓本でしおりをつくろう」に、年間324人〔300人〕の参加者があった。また、季節に合わせて開催した夏の「綿くり・糸つむぎ体験」には1日間で85人〔115人※2日間〕、正月の「凧づくりと凧あげ」には20人〔16人〕の参加者を得た。毎月2回、1階のエントランスでおこなう「手作りおもちゃで遊ぼう」はおもちゃ作りサポーターによる協力のもと23回実施し、1,666人〔1,819人〕の参加者があった。また、新たに「近代建築ダンボールクラフト体験」を夏休み期間中に実施し、計4回で36名が参加した。

ボランティア事業は、市民参加型博物館をめざす事業の一環として開館時から導入しているもので、今年度は 236 人が登録し、活動は、難波宮の遺跡をめぐるガイドツアー、常設展示での子どもスタンプラリー、古代衣装・江戸時代の両替商体験・明治の双六遊びなど 6 種のハンズオン、8 階の「歴史を掘る」コーナーでの考古学の体験学習を実施した。さらに 5 月と 11 月の連休に開催した「iPad で楽しむ難波宮遺跡探訪」「石組水路の一般公開」への協力もおこなった。ボランティアの活動は休館日と研修日を除き年間 307 日で、延べ 5,271 人〔5,641 人〕が活動した。なお、ボランティア活動の充実と来館者対応の向上を目的に、5 月から 3 月にかけて講習会、他施設の見学会、懇談会・班別交流会など、年間 10 回の館内・館外研修等を実施した。また、現在のボランティアの任期は平成 27 年度末までの 1 年間であったため、次年度以降の継続意思を確認し、215 名を登録者とした。

学習支援関連では、司書・学芸員が常駐する 2 階の学習情報センター「なにわ歴史塾」で、自由に閲覧できる映像ソフト約 100 本、図書約 6,000 冊、「昔の大坂」写真ライブラリー画像約 7,000 枚を中心に、館内外から検索できる書庫内図書約 12 万冊も活用しながら、大阪の歴史や文化に関する市民の学習相談に応じた。さらに時宜に応じた特集図書コーナーを年間 6 回設定し、図書利用の推進に取り組んだところ、積極的に入室する来場者の姿が目立った。

また、区役所や生涯学習施設等からの講師依頼については、可能な限り当館を会場としながらその要請に応えた。

## 5. 学校・市民等との連携

学校連携としては、教員研修、中学生・高校生等の職場体験・職業講話、小学校高学年の考古学体験のほか、大学生の博物館実習の受け入れを行った。

教員等の研修では、大阪市教育センターとの共催で、「大阪市教員研修」(30 人)を実施した。中・高校生等の職場体験・職業講話は、8 校 59 人〔6 校 71 人〕を受け入れたほか、修学旅行などで当館を訪れる小中学生グループからの学習相談にも応じた。また、大阪文化財研究所と連携して「考古学体験教室」を開催し、11 月に市内の小学校 2 校、145 名の児童を受け入れた。大学生の博物館実習は 8 月後半から 9 月前半に延べ 10 日間で 11 大学 43 人〔12 大学 43 人〕を、博物館見学実習については 256 人〔490 人〕を受け入れた。なお小中学校による団体利用は、小学校 417 校〔410 校〕、中学校 135 校〔153 校〕、そのうち大阪市立の小学校 208 校〔190 校〕、中学校 52 校〔54 校〕である。小学校に関してはやや増加したものの、中学校の減少が目立った。

市民や他団体との連携では、上町台地を拠点に活動する NPO 法人まち・すまいづくりとの共催の「うえまちコンサート」、NPO 法人 OSAKA ゆめネットとの共催で「難波宮フェスタ 2015」を開催したほか、大阪歴史学会との共催でシンポジウム「大坂の成立・展開と本願寺・信長・秀吉一「石山」呼称問題から都市論・権力論へ」を実施し、最新の大坂研究の成果を市民に公開し、270 名の参加者を得た。

## 6. 情報発信、広報宣伝

情報発信、広報宣伝については館事業を広く周知し、館利用者の増を目的として積極的に取り組んだ。館の存在の周知を徹底する目的から、地下鉄車内における案内放送を通年で実施するとともに、英文年間行事予定表の制作と英語による特別展概要・主要作品紹介を HP にアップすることで、外国人向けの情報提供をおこなった。web 関係では HP に展示・普及事業にかかわる案

内をすべて掲載し、年間で 367,262 件〔433,635 件〕のアクセスがあった(1 日平均 1,006 件、前年度比 84.7%)。また「モバイルサイト」や「なにわ歴博ブログ」・「なにわ歴史塾ブログ」・26 年度に運用を開始したツイッターによる新着情報の発信を積極的に実施した。ツイッターは 27 年度末でフォロワー数が 1,622、年間ツイート数は 811 であった。なにわ歴博カレンダー(4 回各 2 万部)や行事ごとの案内チラシなどの紙媒体の発行も継続し、多様な層への情報浸透に引き続き取り組んだ。

## 7. 来館者サービスの向上

館内のレストランとの連携をはかり特別展ごとに観覧者への入館割引または飲食割引のサービスを実施している。大阪城天守閣とのセット入場券(常設のみ)は今年で 6 年目を迎えたが、両館で 144,567 枚(前年度比 378%)の販売という大幅な増加を見せた。それにともないセット入場券の購入者に特典として配布する大阪城公園周辺マップをリニューアルし、マップの表記を日本語・ハングル・中国語(簡・繁)・英語とし、利便性を高めた。

## 8. 施設の維持管理

建物設備の維持保全のため空調をはじめとする電気、機械設備などの機器・装置の日常点検のほか、定期メンテナンス、法定点検などを実施し良好な施設設備の維持に努めた。また経年劣化等による機器の不具合に対応し、空調関係機器の整備・改修、非常用電源装置の部品交換などを行った。蒸気配管の劣化に伴う大改修については、大阪市による 4 力年計画で 24 年度に改修に着手、最終の本年度は、北側往管の改修が実施された。老朽化に伴う保守困難や障害が頻発していた館内ネットワーク機器については、職員用パソコンの更新を行った。入場券の発券業務については機械化により、業務のスピード化を図り、お客様より好評を得ている。また、館内外の日常的な清掃に努め、カーペットクリーニングなどの定期清掃を実施するとともに、更に北側外壁補修を行うなど建物の美観を保つよう努めた。

防火・防災に関しては当館、NHK 大阪放送局、ビル管理会社が一体となった訓練を行い、非常時の対応について三者で確認を行った。

## 9. 友の会 その他独自事業

友の会については、自主運営に移行して 2 年目を迎えた。事業としては「史跡をめぐる」「街道を歩く」をテーマとした見学会など、計 9 回が行われ、331 人の参加者があった。なお当館は、事業の企画や講師の派遣などをとおして友の会の活動支援を行った。

その他、独自の事業として、ジュンク堂書店大阪本店で、展示図録等の常備販売を実施している。

## 5 大阪市立自然史博物館管理運営事業

平成 27 年度には自然史博物館が昭和 49 年に長居公園に移転して開館からの通算入館者数が 1,000 万人を達成した。

特別展は会計年度を越えて開催した特別展を含めて、2 回開催した。主催展として開催した「たまごとたね 一いのちのはじまりと不思議」展は、市民がイメージしやすいタイトルもあいまって、2 万人を超える来館者を獲得できた。「スペイン 奇跡の恐竜たち」展は、前年に開催された展示（福井県立恐竜博物館）から、大阪展として大胆にローカライズするとともに経費の見直しも行い、収支比率の改善ができた。

### 1. 資料の収集、保管事業

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じて海外からも収集した。収集した標本は低温燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、展示・研究活動に活用している。この数年間、新規資料は主として寄贈によって増加している。27 年度に寄贈を受けた主なコレクションは以下の通りである。

日本近海の貝類（1,700 点）、環境省浅海域生態系調査（干潟調査 2002・2004 年）において採集された多毛類（1,350 点）、コアラ・トラなどの飼育哺乳類（天王寺動物園、30 点）、沖縄島産などハネカクシホロタイプ（6 点）、シデムシ科・コブスジコガネ科甲虫（春沢コレクション）（1,048 点）、国内外産コメツキムシ等甲虫（岸井コレクション）（64,800 点）、コケ植物標本（565 点）、近畿地方産外来植物（15 点）、泉南市産モササウルス顆化石、香川県・徳島県・兵庫県の和泉層群化石金澤コレクション一式、GIA Japan 大阪校所蔵宝石・鉱物スザーコレクション一式（約 3,500 点）、泉佐野市産モササウルス歯化石（5 点）。

平成 27 年度末の総資料数は 164 万 4,633 点である。（昨年度末比 84,542 点の増加）

### 2. 展示事業

平成 27 年度の入館者数は、常設展 214,822 人（うち有料 87,263 人）、特別展 115,205 人（うち有料 41,419 人）であった。常設展、特別展を合わせた総入館者数は、330,027 人であった。常設展入館者は前年度比 103.5% で 7,296 名増、総入館者数も前年度比 2,381 名増となった。

#### (I) 常設展示

平成 27 年度には、2 月の実施された施設改修に伴う臨時休館期間を利用して、第 1 展示室と第 3 展示室のあわせて 3 コーナーの展示更新を実施し、第 2 展示室の解説パネルの一部を更新した。第 1 展示室では「9 淀川 河川敷とワンド」を「9 外来生物の影響」に全面的に展示内容を変更した。第 3 展示室では、「20B 植物も動く 種子散布」の展示をテーマと展示構成はそのままに、特別展「たまごとたね」の成果を取り入れて、展示物の大部分を入れ替えた。「21A 花と 動物」のハナバチの模型が第 5 展示室に移動となって空きスペースができていたので、花粉媒介のテーマは変えずに、ハナバチに限らず、花に来て花粉を運ぶさまざまな昆虫や鳥を展示した。また引き続き満足度向上もめざして「ジオラボ」・「子どもワークショップ」・「ミニワークショップ（たんけんクイズ）」等の館内行事を実施し、来館者サービスに努めた。

## (2) 特別展

### ①第46回特別展「たまごとたね 一いのちのはじまりと不思議—」

＜会期＞ 平成27年7月18日（土）～10月18日（日）

多様なタマゴ、タネを展示するとともに、タマゴとタネを「対決」という形で比較しながら、子孫を残すためや分布を広げるための仕組みについて紹介した。

殻をもつようなタマゴの多くは自ら動くことができず、それらを守るために親が様々な工夫をしている。一方で、自分では動けない植物にとって、タネの時期は分布を広げるチャンスである。このためタネには分布を広げるための様々な工夫が施されている。展示では、このようなタマゴ、タネの生き残りをかけた戦略や生態について学べるよう工夫し、また、その結果生み出されたタマゴとタネの多様な形と色を実感できるように、様々な生態、生活史を持つ動植物のタネ、タマゴを展示した。

#### 〔主な展示物〕

タマゴとしては、エピオルニス（史上最大のタマゴ）、ダチョウ、キーウィ、その他各種鳥類、軟体動物、魚類、昆虫類、両生類、爬虫類等のものを展示した。鳥類、昆虫類等は親の標本についても展示した。タネとしては、フタゴヤシ（世界最大のタネ）風散布のもの、ひっつきむじ各種、海流散布のもの、ラン科植物などの小さいタネ、胎生種子、ドングリなど貯食型散布のもの、鳥散布のもの等を展示した。このほか、スーパーボールを用いて、大卵少産と小卵多産が実感できる展示や、滑車により飛ぶタネの模型を展示室の天井近くまで上げ、飛ばしてみることができるタネリフト等のハンズオン展示も自作して設置した。

入場者：21,489人（うち有料合計6,184人）。

### ②特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」

（読売新聞大阪本社、讀賣テレビ放送と実行委員会を組織し開催）

＜会期＞ 平成27年3月21日（土・祝）～5月31日（日）（うち平成27年度は55日間）

本展では中生代白亜紀（約1億4500万年前から6600万年前）のスペインの地層から見つかった肉食恐竜「コンカベナトール」と日本の肉食恐竜「フクイラプトル」が近縁な関係であることから、これらの恐竜を比較するとともに、スペインの様々な恐竜を紹介した。

#### 〔主な展示物〕

2010年にイギリスの科学誌「ネイチャー」で発表された、腰部分に奇妙な突起をもち、羽毛や手足の裏の肉球のあとが残る“奇跡的”な保存状態の恐竜「コンカベナトール」の全身骨格標本をはじめ、スペインから発見されている白亜紀の様々な恐竜化石や初期の鳥類化石、そして生息環境を示す動植物の化石を多数展示した。

入場者：110,681人（有料合計42,296人、総入場者のうち平成27年度は93,716人）。

## （3）特別陳列等

### ①ミニ展示「高校生がみつけた大阪のモササウルス類」

会期：平成27年5月5日（火）～6月19日（金）

兵庫県の私立灘高校の地学部生徒が泉南市の山中でみつけ、当館に寄贈されたモササウルス類化石をナウマンホールにおいて展示した。展示初日に標本の寄贈式を行い、テレビ取材も受けた。

### ②ミニ展示「植物食恐竜ステゴサウルスの骨から感染症の証拠を発見！」

会期：平成 27 年 8 月 26 日（火）～9 月 28 日（日）

世界で初めて、恐竜の多発的な感染症の痕跡、およびステゴサウルスで初めて、骨の表面に現れない骨内部への感染症を、当館学芸員が発見し、国際学術誌に論文が掲載された。プレスリリースするとともにその研究に用いた標本を、本館・第 2 展示室 ステゴサウルスの全身骨格の前で展示した。

③ミニ展示「骨を硬く緻密にすることで体を支えた 重量型の大型恐竜・哺乳類」

会期：平成 27 年 12 月 11 日（金）～平成 28 年 1 月 31 日（日）

当館学芸員を含む国際共同研究チームが、国際学術誌に論文として公表し、プレスリリースした研究成果を、研究で使用した大阪市立自然史博物館所蔵のゾウと恐竜の化石標本とともに、本館・第 2 展示室 ステゴサウルスの全身骨格の前にて展示した。

④ミニ展示「ジュニア自由研究標本ギャラリー」

会期：平成 27 年 12 月 5 日（土）～平成 28 年 1 月 31 日（日）

小中高生が日頃から採集している標本や夏休みの自由研究を本館 2 階イベントスペースで展示した。生き物や化石・岩石がテーマの作品を対象とし、関連する分野の学芸員による手書きの講評を付けた。

⑤ミニ展示「マツボックリ化石にミキマツ (*Pinus mikii*) と命名－名前が無くなった化石に新たな名前を与える－」

会期：平成 28 年 3 月 1 日（火）～ 繼続中

オオミツバマツ（三葉松の化石種）の化石を研究した結果、学名が変更されることになった。その変更の過程で、よく見つかる化石であるにもかかわらず名前を失ったものが発生し、その化石に対し、新たな名前として「ミキマツ」と命名した。研究の元になったオオミツバマツおよびミキマツの化石（当館所蔵標本）を本館第 2 展示室において展示した。

⑥来館者 1,000 万人突破記念展示「大阪市立自然史博物館が開館した 1974 年」

会期：平成 27 年 10 月 10 日（土）～11 月 8 日（日）

長居公園において「大阪市立自然史博物館」として開館して以来、10 月 10 日で来館者 1,000 万人になった。開館した 1974（昭和 49）年当時の長居公園周辺や博物館の写真、開館告知のポスターや第 1 回特別展のポスター、2006 年まで本館に展示していた、大阪万博由来のヘラジカの剥製など、当時を振り返る懐かしの品々を本館 1 階ナウマンホールにおいて展示した。

⑦2015 年国際土壌年記念 巡回展「土ってなんだろう？」

国際土壌年を記念して埼玉県立川の博物館が日本ペドロジー学会、一般社団法人日本土壌肥料学会とともに企画した巡回展示で、土壌の特性について多くの来場者に観てもらうことのできた展示となった。

会期：平成 27 年 9 月 19 日（土）～10 月 18 日（日）

会場：大阪市立自然史博物館 本館 2 階イベントスペース

主催：大阪市立自然史博物館、埼玉県立川の博物館

共催：日本ペドロジー学会、一般社団法人日本土壌肥料学会、ミュージアムパーク茨城県自然博物館

後援：国立研究開発法人 農業環境技術研究所、日本土壤動物学会

協賛：公益社団法人 日本左官会議

協力: INAX ライブミュージアム (LIXIL グループ)、眞藤憲政、鈴木忠 (慶應義塾大学)、

鈴木智也 (信州大学)、福島種業株式会社、宮本卓也

主な展示物: 日本各地の土壤モノリス標本を中心に約 100 点

### 3. 調査研究事業

調査研究は博物館活動の根幹をなすものであり、学芸員の個別テーマによる研究をはじめ、平成 29 年度開催予定の特別展準備を兼ねた「瀬戸内海の総合調査」、平成 31 年度の特別展開催に向けて市民と協同で進める「大阪を中心とした外来生物の影響プロジェクト調査」、などを実施してきた。その成果の一部は特別展「たまごとたね」でも紹介したほか、館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、講演会を通じて市民に普及した。

27 年度は外部研究資金として文部科学省科学研究費補助金は基盤研究 9 件（基盤研究 A 1 件、同 B 1 件、同 C 7 件）、若手研究 2 件、挑戦的萌芽研究 1 件の補助を受けた。また分担研究者として 6 件の研究を実施し、研究費（間接経費を含む）の配分を受けた。民間ファンドでは、全国科学博物館活動等助成事業、タカラ・ハーモニストファンド、河川整備基金助成事業、水源地環境基金、武田科学振興財団による研究助成も各 1 件採択された。

### 4. 教育・普及事業

市民が自然をより深く理解するためには、展示を見るだけでなく、野外で実物の自然に触れることが重要である。自然史博物館ではこのような観点から、多様な博物館利用者とその要望に応えるため、各種の普及行事を行っている。これら普及教育事業の開催は 226 回、参加者総数は 26,537 人 (昨年度は 38,882 人) であった（詳細は別紙資料編に掲載）。

また、行事の実施に際しては、自然史博物館のボランティアである補助スタッフの協力を得ている。補助スタッフとして延べ 315 名の方々に協力いただいた。

### 5. 学校・市民等との連携

「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、学校教員や教員を目指す大学生・自然観察会指導者を対象とした「教員・観察会指導者向け支援プログラム」を計画的に実施できた。学校向けには、展示解説や標本など博物館資料の貸出し、学校教育を支援してきた。また 8 月 7 日には「教員のための博物館の日」を、一般財団法人全国科学博物館振興財団による全国科学博物館活動助成を受けて開催した。小中学校の団体見学は合計で 460 校（市内小学校 138 校、市外小学校 208 校、市内中学校 50 校、市外中学校 64 校）であった。

大学生の博物館実習は、14 大学、のべ 24 名の学生を受け入れた。職場体験学習は、大阪府内の中学校 7 件、高等学校 1 件（合計 11 人）を受け入れた。

友の会会員を中心に 100 人以上の市民が参加するプロジェクト A 「外来生物の影響調査」を開始した。「認定 NPO 大阪自然史センター」との連携により、博物館事業の充実にも努めている。

### 6. 情報発信、広報宣伝

情報発信、広報宣伝については館事業を広く周知し、より多くの市民に博物館を利用してもらうことを目的として取り組んだ。従来型の展示事業・普及教育事業のポスター・チラシを中心

心とした広報に加えて、研究成果などのプレスリリース、Web・SNSを利用した広報に積極的に取り組んだ。

ホームページは、タイムリーで内容豊富な情報発信に努めている。平成27年度のHPアクセス数（トップページ）は約41.5万件で、昨年比2.5万件減。HP掲載の新着情報を中心に「Twitter」、「Face Book」を通じて情報提供するなどしている。Twitterの発信数は477件、フォロワー数は約4,900（700の増）であり、広報媒体として良好に機能していることがうかがえる。「Face Book」は、情報がどのくらいの人に到達したかの指標でもある合計リーチ数は昨年度が23万人だったのに対し、今年度は約33万人と増加し、この3年間で4倍以上に増えた。

今年度から特別展の解説用に作成した映像を動画投稿サイトYou Tubeに試行的に掲載しており、「都市の自然」展会場の動画（アシダカグモ）は9カ月で50万回の視聴になっている。1日あたり約2000人が、博物館名とロゴマークを見たことになる。また特別展の内覧会には、特別展を宣伝協力いただくブロガーを招待し、市民参加型の広報を実施した。

地下鉄車内ガイド放送（最寄り駅案内）を、特別展開催時は特別展情報を案内して、地下鉄御堂筋線沿の利用者に対して広く博物館の存在を周知することができた。

## 7. 来館者サービスの向上

「花と緑と自然の情報センター」には、図書閲覧・情報検索・標本閲覧・ビデオ閲覧のコーナーがあり、学芸員を配置して質問等にも対応し、多くの市民の学習の場になっている。また、本館ミュージアムサービスセンターには教育スタッフを配置して学校対応や市民サークルへの窓口になった。常設展では、来館者向けイベントの「ジオラボ」「子ども向けワークショップ」「自然史博物館探検クイズ」を実施し、多くの来館者から好評を得ている。

JR長居駅からのアクセス看板設置、特別展の開催時は長居公園内に看板とともに幟を設置してアプローチを分かりやすくした。

## 8. 施設の維持管理

警備・案内・券売・清掃及び設備等の保守点検を外部委託し、安全・快適な施設の維持管理に努めてきた。職員による日常的な安全点検を励行するとともに、職場安全衛生委員会の職場巡視も行っている。防災対策では、隣接の長居パークセンターと協働で震災・防火訓練を実施した。平成27年度は大阪市により、本館玄関ホールガラス補修工事・ポーチの屋根の一部補修工事及び各室冷房設備の更新工事が実施された。

## 9. 友の会

自然史博物館友の会（27会計年度は1,690名）は、昭和30年に大阪市立自然科学博物館後援会として発足した当初から、博物館と連携しながら市民と博物館をつなぐ役目を果たしてきた。その自然史博物館友の会を母体として平成13年には「NPO大阪自然史センター」が発足し、現在は大阪自然史センターが友の会を運営している。友の会会員向けの観察会などを50回開催（のべ2,535名が参加）し、学芸員が観察指導を行った。友の会会員は、友の会が主催する行事に参加するだけでなく、博物館が開催する各種の普及教育事業にも積極的に参加し、行事を盛り上げてくれている。また友の会行事は積極的に公開し、一般の人々の参加も可能にしているので、参加者の満足度も高く、友の会への関心を高めることができた。

## 6 大阪市立美術館管理運営事業

美術館では、展覧会にかかる事業が中心となって全体の事業が展開している。平成 27 年度は、シカゴ ウエストンコレクションの肉筆浮世絵を紹介する特別展「肉筆浮世絵展－美の競艶～浮世絵師が描いた江戸美人 100 選～」と秋の「二科 100 年展」など 4 本の特別展を開催した。また、所蔵品・寄託品によるコレクション展（平常展）では、解説パネルや作品ごとの解説など見やすさとわかりやすさの点で充実をはかるよう努めた。こうした展覧会の展示や講演・美術講座の開催などを通じて、市民の情操と知的好奇心を刺激し、学習支援とともに美術に対する関心を高め、あわせて来館者の増加を図った。一方、様々な展覧会や講演会・講座・論考、寄贈希望作品や新たな寄託品などのために作品の調査・研究を行い、ホームページのより一層の充実を図って来館者への情報提供を行った。また、作品の収集・保管・貸出をはじめ、施設と設備の維持管理にも万全を期すとともに、大阪市経済戦略局が実施した耐震補強工事、外壁改修工事、南館 2 階の壁面ケースの補修・改良工事と新規斜面ケースの購入についても、滞りのないように様々な連携をしながら実施することができた。

### 1. 資料の収集・保管事業

- ・近世絵画 1 件、近代日本画 1 件、近代洋画 6 件、近代書跡 3 件、中国拓本 6 件、ベトナムの陶磁器 1 件（合計 18 件）の寄付申出作品に関する評価を行い、経済戦略局に上申して決裁後に台帳登録した。
- ・寄託作品は 25 件を受入れ、31 件を返戻した。
- ・国内外の美術館・博物館に 28 件（155 点）の作品貸出し起案決裁事務を行い、出版社などに作品の写真画像 91 件（182 点）を貸出した。
- ・中央収蔵庫の燻蒸作業を実施し、あわせて IPM（総合的有害生物管理）の一環としての防虫・防塵にかかる清掃作業も実施した。
- ・大阪市経済戦略局による施設の耐震補強工事において、南収蔵庫の東壁の改修を行った関係で、南収蔵庫の収蔵作品を北館 2 階陳列室に移動することとし、収納棚の設置や扉の増設などを行ったのちに作品を移動し、24 時間空調を行って作品の保全を図った。

### 2. 展示事業

#### (1) コレクション展（平常展）

美術館所蔵のコレクションの中から、日本、中国等の東アジアの作品を中心とした展示を特別展と併設して 5 回、140 日開催した。年間を通じたそれぞれのテーマについては、「五月人形 丸平と永徳齋、清風の茶 煎茶の美、香の道具、動物と美術－日本画と工芸－、山水－中国書画、経典、遊楽と美人、四季を愛する、俑の世界、輸出漆器 桃山～明治、螺鈿 中国・朝鮮半島・日本、堆朱・鎌倉彫・根来、仏教工芸、沈没船からの贈り物、仏教彫刻」の 15 テーマである。本年度も、館外の案内看板の一部にコレクション展の案内をのせ、展示室内の解説パネル、題簽・作品解説などにも読みやすいフォントを使うなどの工夫をこらし、見やすさとわかりやすさにつとめた。なお、コレクション展全体の入場者は 39,005 人（特別展入館者を含む）であった。平成 27 度は、晚秋から年度末までの工事期間に休館していた関係でコレクション展の開催日が少なく、特集展示も開催しなかった。

## (2) 特別展

学芸員の調査研究の蓄積を基礎に、利用者のニーズを踏まえながら魅力あるテーマを設定し、また全国を巡回する集客性が高く充実した内容の展覧会を誘致して特別展を開催した。

### ①シカゴウェストンコレクション 肉筆浮世絵－美の競艶

～浮世絵師が描いた江戸美人 100 選～

〔平成 27 年 4 月 14 日（火）～6 月 21 日（日）の 60 日間、観覧者数 78,449 人〕

主催：大阪市立美術館・日本経済新聞社・テレビ大阪、BS ジャパン

アメリカ在住の実業家で日本美術のコレクター、ロジャー・ウェ斯顿氏の収集品の中から世界有数の規模と質を誇る肉筆浮世絵コレクションを初公開した里帰り展。葛飾北斎など 50 人を超える絵師の多彩な美人画の作品を通して、江戸初期から明治にいたるまでの肉筆浮世絵の歴史を系統たてて紹介した。新発見の喜多川歌麿作品や状態が良好な作品群は愛好家を魅了する高レベルの作品であった。特殊なアクリル素材、有機EL 照明などの最新の照明技術を企業の協力で使用することができ、掛軸の一点一点を際立たせるケースを作成して会場全体をディスプレーすることで、美しい展示環境を作り出すことができ、作品の質の高さともども来館者の満足度は高かった。

### ②第 61 回全関西美術展

〔平成 27 年 7 月 14 日（火）～7 月 26 日（日）の 12 日間、観覧者数 6,825 人〕

主催：大阪市立美術館・読売新聞社

全関西美術展は、昭和 16 年に大阪市民の芸術振興を目的として、公募による総合芸術展「大阪市展」として発足したが、現在は「全関西美術展」と改称して出品対象の地域を限定せずに、読売新聞社と共に開催している。今年度は 876 点の応募があり、568 点が入選し、無鑑査・招待作家の作品 345 点を含めて 913 点の作品を展示した。大学の美術関係の学部や美術系の専門学校、画塾などへの広報を一層増やしたことなどから、一般の応募が 100 点ほど増え、応募の減少傾向にわずかに歯止めをかけることができた。

### ③伝説の画家たち 二科 100 年展

〔平成 27 年 9 月 12 日（土）～11 月 1 日（日）の 45 日間、観覧者数 34,211 人〕

主催：大阪市立美術館・二科会・産経新聞社・関西テレビ放送・フジテレビ

二科展は大正 3 年（1914）から続く在野の公募展。若き洋画家たちが文部省美術展覧会（文展）の監査に不満を抱き、洋画部門を新旧二科に分類することを願い出たものの聞き入れられなかったことに端を発する。官制アカデミズムの対極に位置する二科会は海外の美術動向に敏感に反応し、多くの美術運動や分派を生み出した。本展は平成 27 年に 100 周年を迎えた二科展を記念した展覧会で、坂本繁三郎、安井曾太郎、東郷青児、萬鉄五郎、関根正三、藤田嗣治らをはじめ、黒田重太郎、佐伯祐三、小出権重、鍋井克之、国枝金三、吉原治良など関西の出身・在住の多彩な作家も輩出しが、二科展の 100 年の変遷を二科展に出品された名品の数々によって紹介することができた。いわゆる官展が存在しない現在にあっても、日本の近現代美術史に大きな影響を与える続ける二科会の存在意義とその在野精神を紹介することができ、来館者の展覧会

に対する評価は高かった。

#### ④ 改組 新 第2回日展

[平成 28 年 2 月 20 日（土）～3 月 21 日（月・祝）の 27 日間、観覧者数 45,465 人]

主催：大阪市立美術館・公益社団法人日展

昨年度に様々な問題点の指摘を受けて組織改革を行って「改組 新 第1回」として開催したが、今年度も日展所属の作家の作品やその年の入選作品による基本作品 246 点と、大阪・奈良・和歌山・兵庫の 4 府県の地元作家の入選作品 361 点、合計 607 点を展示した。

内訳は日本画 95 点、洋画 112 点、彫刻 53 点、工芸美術 78 点、書 269 点で、日展出品作家による作品解説を 16 回開催した。また、日展作家による作品プレゼント抽選会を毎週土曜日に 5 回開催した。

### 3. 調査・研究事業

- ・平成 27 年度に開催を予定した特別展「肉筆浮世絵－美の競艶」、特別展「伝説の画家たち二科 100 年展」、平成 28 年度の開催を予定している特別展「王羲之から空海 日中の名筆漢字とかなの競演」、特別展「デトロイト美術館展」について、作品情報の調査・研究を実施した。また、特別陳列の 80 周年記念名品展のために、館蔵・寄託の収蔵品について作品情報の再調査と整理などを行った。
- ・『大阪市立美術館紀要』16 号を年度末に発行し、当館学芸員 4 名による館蔵品などに関する論文と資料紹介 5 本を掲載した。
- ・平成 25 年度に文部科学省による科学研究費対象施設と認められたが、平成 27 年度科学研究費補助事業として引き続き 2 研究を実施した。

### 4. 教育・普及事業

#### (1) インターン研修事業

彫刻の分野について 2 大学院計 2 人の研修生を受入れた。内容は館蔵・寄託の収蔵品の作品調査・整理業務を学芸員とともに実施した。

#### (2) 博物館実習

実習生として 24 大学から 45 名の大学生を 7 月 3 日（金）～7 月 10 日（金）の 6 日間受け入れて博物館実習を実施した。特別展「全関西美術展」に関する補助作業の実習、および工芸や書画の作品の取り扱いなどの講義・実習のカリキュラム内容で実施した。

#### (3) 記念講演会など（合計 48 回、総参加者数 2,454 人）

- ・特別展「肉筆浮世絵－美の競艶」

記念講演会 計 2 回実施（外部講師 2 回）

見どころトーク 当館学芸員 3 回

- ・特別展「第 61 回全関西美術展」

審査員（5 部門 5 人）による審査講評を授賞式とともに実施した。

- ・特別展「伝説の画家たち 二科 100 年展」

記念講演会 計 4 回実施（館長 2 回、外部講師 2 回〔二科会会員〕）

見どころトーク 計 10 回（当館学芸員 4 回、外部講師 6 回〔二科会会員〕）

- ・秋季連続美術講座 9月20日～23日の4日間  
各回当館学芸員2名による講座、計8回
- ・特別展「改組 新 第2回日展」  
出品している地元作家による作品解説を16回実施した。

#### (4) 普及イベント（合計2回）

- ・特別展「伝説の画家たち 二科100年展」  
子ども向けワークショップ（特別展「伝説の洋画家たち 二科100年展」の鑑賞と、動物園での写生、作品講評会）
- ・特別展「改組 新 第2回日展」  
日展作家プレゼント抽選会 地元作家提供によるプレゼント抽選会を5回実施した。  
(抽選券配布合計750枚)

### 5. 学校・市民等との連携

#### (1) 小学校・中学校の鑑賞授業

特別展「肉筆浮世絵展」で小学校1回49人、特別展「二科100年展」で小学校4回228人、計5回277人の学校体験学習（鑑賞授業）を行って、それぞれの学校の教諭と当館学芸員により鑑賞授業を実施した。

この内、瓜破東小学校（10月6日）、関目小学校（10月29日）、2校の鑑賞授業については、大阪市博物館協会の学校連携として実施した。

#### (2) 障がい者特別鑑賞会

三菱商事株式会社と連携し、普段なかなか美術館等に行きづらい障がいの方々がゆっくりと鑑賞できる特別鑑賞会を特別展「肉筆浮世絵展」開催時の5月30日（土）に行い、68名の参加を得た。

#### (3) なにわの日記念 うえまちコンサート

美術館の地元、NPO法人まち・すまいづくり、地域情報紙「うえまち」のイベントの一環として、8月2日（日）に「第30回うえまちコンサート バロックの夕べ in 大阪市立美術館」を開催し、205名の参加を得た。

#### (4) なにわの日記念 アトリエ澤野ジャズライブ

美術館の地元の浪速区、および浪速区役所のイベントの一環として、3月27日（日）に「第10回なにわの日記念 アトリエ澤野ジャズライブ」を開催し、231名の参加を得た。

#### (5) 美術館へ行こう

- ・「春の親子写生会」を5月5日（火・祝）に行い、35人の参加を得た。
- ・夏休みに小中学生を対象とした絵画などの教室を7月23日（木）～25日（土）と7月29日（水）～7月31日（金）の2回開催し、それぞれ20人、18人の参加を得た。
- ・冬に大人向けの「石膏デッサン公開講座」を12月24日（木）～26日（土）に開催し、15人の参加を得た。

#### (6) 団体レクチャー

- ・学校やカルチャーセンターの団体鑑賞において、要望があつて対応可能な場合に限つて20～30分程度のレクチャーを行った。今年度は肉筆浮世絵展で5回、二科100年

展で3回実施した。

## 6. 情報発信、広報宣伝

ホームページに展覧会の見所や展覧会場の写真などを掲載し、即時性のある情報を提供して、展覧会情報等をやさしく説明しながら案内ができるよう努めた。

平成27年度の美術館ホームページへのアクセス件数は、562,979件であった。

展覧会のポスター掲示やチラシの設置を、様々な広報協力をいただいているあべの地下街等の民間施設、及び各美術館・博物館に依頼し実施している。また、市営地下鉄の公共広報板への広告の掲出も行った。さらに、新聞社、放送局と連携し、新聞への記事掲載やテレビ放映にも努めた。

特別展ごとにマスコミの学芸部・文化部などに案内を送り、開会式の前に報道内見会を開催して、それぞれの展覧会の特質と見どころをギャラリートークなどにより行い、展覧会の広報宣伝の依頼を行った。

また、グーグルアートへの作品画像の提供により美術館の優れたコレクションを世界にアピールすることができた。

また、天王寺公園エリアの魅力向上を目指して、大阪市や関係先と連携して、天王寺公園の魅力発信・情報発信に取り組んだ。10月1日の「てんしば」開園に際しては、近鉄不動産と協議して、公園入り口付近のデジタルサイネージ及びポスター掲示板にて、当館の展覧会案内を無料で広報する協力を得ることができた。

## 7. 来館者サービスの向上

天王寺ゲートや「てんしば」から美術館への案内表示やJR天王寺駅の美術館案内看板の設置等、美術館へのアクセスを分かりやすくした。また、館内のトイレ、ロッカー、休憩場所の矢印案内等を増やして来館者により親切な案内板の設置を心がけるとともに、お客様のニーズをくみ上げて、受付での荷物の預かりや障がいの方の館内案内等を、必要があれば即時実践して、財団ならではのサービスを実施してきた。

## 8. 施設・設備の維持管理

警備・清掃・設備管理及び保守点検を外部委託し、安全・快適な施設の維持管理に努めている。職員による日常的な安全点検も励行した。

経年による施設や設備関係の老朽化が進み、大阪市とも連携しつつ維持管理にあたっている。本年は大阪市による、地下1階の耐震改修工事、建物正面（西面）の外壁改修工事、南館2階の壁面ケースの補修・改良工事と新規斜面ケース18台の購入を実施したが、工事内容の検討、美術作品移設場所の整備、美術作品の移動、ケースの機能向上のための仕様の検討、日程調整なども連携して実施した。

## 9. 友の会

友の会ニュースを6回発行し、野外写生会を6回、基礎講座を6回開催した。また、友の会の展覧会として、7月14日から7月19日に夏季展、第51回友の会展を1月19日から1月24日のそれぞれ6日間開催した。

今年度の会員は 490 人で、昨年度から 26 人の減となった。

#### 10. 美術研究所

美術研究所は、関西を基盤として活躍している質の高い画家が講師として日々の指導を行っている。

絵画コンクールを 6 回、研究所展覧会を 1 回、絵画作品批評会を 2 回、ジョイントセミナーを 4 回開催した。「美術館へ行こう」として小中学生を対象とした絵画教室を 2 回、親子を対象とした写生会を 1 回、大人を対象とした絵画教室を 1 回開催し、合計 88 名の参加を得た。

入所検定は 4 月、6 月、9 月、1 月を行い、計 36 名の入所者があった。

その結果、平成 27 年度研究生は 133 人となり、前年度より 8 人減となった。

## 7 大阪市立東洋陶磁美術館管理運営事業

平成 27 年度は、特別展として「黄金時代の茶道具－17 世紀の唐物」と「新発見の高麗青磁－韓国水中考古学成果展」を開催した。大阪の陣 400 年記念事業特別展「黄金時代の茶道具－17 世紀の唐物」では、日本の茶道史を通して珍重された中国の美術品「唐物」を、黄金期と考えられる 17 世紀を中心に約 50 点紹介した。「唐物」は室町時代を中心に取り上げられることが多いが、今回は侘び茶を大成した千利休を始めとする多くの茶人が活躍した 17 世紀に焦点をあて、その活躍の場が大坂であったこともアピールする展示となった。

また、日韓国交正常化 50 周年記念国際交流特別展「新発見の高麗青磁－韓国水中考古学成果展」では、近年注目を集めている水中考古学の手法による、高麗青磁の研究成果に焦点をあて、韓国国立海洋文化財研究所がこれまでに行った調査研究の成果を、日本ではじめて紹介した。

最新の水中考古学の調査によって発見された引き揚げ品約 180 点を中心に高麗青磁の歴史を概観しつつ、新知見を紹介し、関連する館蔵品約 20 点も合わせて展示し、その価値や魅力を改めて発信した。

### 1. 資料の収集、保管事業

芸術的あるいは資料的価値の高い作品の寄贈受入について推進し、館蔵品の寄附が計 3 件(作品数 866 点、評価額 8,822 万円)あった。

さらに、展示事業や調査研究用として、東洋陶磁その他美術に関する書籍等を収集した。

### 2. 展示事業

#### (1) 常設展示（平常展示）

安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁の中から代表的作品を中心に約 300 点をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示した。

(平成 27 年 4 月 4 日(土)～平成 28 年 1 月 31 日)

また、常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約 20～30 点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示を次のとおり開催した。

「東洋の青花磁器」 (平成 27 年 7 月 11 日(土)～8 月 23 日(日))

「中国青磁の美」 (平成 27 年 9 月 5 日(土)～11 月 23 日(月・祝)、  
12 月 5 日(土)～平成 28 年 1 月 31 日(日))

#### (3) 特別展示

##### ① 大阪の陣 400 年記念事業特別展「黄金時代の茶道具－17 世紀の唐物」

(平成 27 年 4 月 4 日(土)～6 月 28 日(日)、開催日数 74 日、入館者数 34,065 人)

室町時代に幕府を中心に愛好された中国の美術品「唐物」は侘び茶の流行により、煌びやかな曜変天目にかわって侘びた灰被天目などが好まれるようになった。「唐物」の美意識も変化し、井戸茶碗などの韓国陶磁が珍重されるなど、その概念も広がっていった。また織田信長の「名物狩」により、その価値は一国の城に匹敵するようになり、政治的意味合いの濃いものとなっていました。

本展では16世紀から17世紀に焦点をあて、戦国の武将たちの多くが、侘び茶を嗜み「唐物」を愛好していたことを、武将の名を銘とした茶道具の名品を附属品とともに展示して紹介した。また、現存の国宝如庵のパネルや復元された黄金の茶室の画像などにより、当時を偲べる環境を提供した。特に新館ロビーに設置した「黄金の茶室」の撮影スポットは、多くの来館者的好評を得た。

## ②日韓国交正常化50周年記念国際交流特別展「新発見の高麗青磁－韓国水中考古学成果展」

(平成27年9月5日(土)～11月23日(月・祝)、開催日数69日、入館者数19,756人)

高麗時代(918～1392)の青磁は、韓国の美術史上に大きな位置を占め、世界に誇るべき美術品である。その研究は、文献調査や窯址発掘のみならず、近年では、水中考古学による成果が注目を集めている。本展では、韓国国立海洋文化財研究所が最新の水中考古学の調査によって発掘した引き揚げ品、約180点を中心に高麗青磁の歴史を概観しつつ、海底遺物と関連する当館所蔵の高麗青磁作品約20点を合わせて展示し、館蔵品の価値や魅力も同時に改めて発信する構成とした。来館者アンケートによると、85.1%が満足と回答し、「海に沈んだ高麗青磁の美しさに驚いた」、「積荷としての陶磁器の性格を、文字資料や他の積荷、梅瓶の使用方法を通じ、理解できた」、「発掘陶磁器片が、美術館所蔵の高麗青磁と比べて展示されているので、所蔵品の価値がよくわかった」などの好意的な感想が寄せられた。また、本展は韓国国際交流財団より147,000ドルの助成金を得て開催した。

## 3. 調査・研究事業

展示事業に関する調査研究として、高麗青磁の作品や資料の調査、水中考古学に関する最新の韓国・日本の資料の調査を実施した。

また、韓国陶磁調査研究事業では「中後期高麗青磁の研究」をテーマとして韓国や中国の出土資料や窯址等の調査を行った。さらに、中国や日本から出土する高麗青磁の様相を東アジア海域史の中に位置付けるため、その資料を調査し昨年に続き公開講座を実施した。

なお、外部資金による研究では、科学研究費補助金等計3件(計208万円(間接経費含む))を獲得した。

## 4. 教育・普及事業

### (1) 講演会等の実施

展覧会の内容の理解や、調査研究の成果を還元するため講演会、講座、研究会等を開催した。

#### ① 講演会

- ・特別展「黄金時代の茶道具－17世紀の唐物」記念講演会

「徳川將軍の御成と唐物」原史彦氏(徳川美術館学芸部)他計2回、参加者114人)

- ・特別展「新発見の高麗青磁－韓国水中考古学成果展」記念講演会

「韓国水中文化財発掘の現況と泰安地域の調査成果」申鍾国氏(韓国国立海洋文化財研究所・学芸研究官)他計3回、参加者計220人

② 講座

- ・大阪府高齢者大学講座「豊かな日本専門史－茶道」重富滋子（当館学芸員）、参加者 29 人
- ・李秉昌博士記念公開講座 9 「東アジア海域と高麗青磁Ⅱ」李康漢氏（韓国学中央研究院・副教授）、王富強氏（中国烟台市博物館・副館長）、徳留大輔氏（出光美術館・学芸員）、鄭銀珍（当館学芸員）、参加者計 104 人

③ アフタヌーン・レクチャー

- ・「天目の覆輪について」小林仁（当館主任学芸員）他計 2 回、参加者 70 人

④ 学芸員による見どころ解説

- ・特別展「黄金時代の茶道具－17世紀の唐物」重富滋子（当館学芸員）計 6 回、参加者計 305 人
- ・特別展「新発見の高麗青磁－韓国水中考古学成果展」鄭銀珍（当館学芸員）計 9 回、参加者計 331 人

(2) 博物館学・実習

博物館学を開講する大学の団体見学 4 校 145 人（関西学院大学、大阪大学、大阪芸術大、大阪市立大学）を受け入れ、当館学芸員がレクチャーを行った。

(3) 普及イベント

特別展「新発見の高麗青磁－韓国水中考古学成果展」関連イベントとして、市民約 800 人を招待して、韓国国立釜山国楽院公演団による音楽や舞踏を「高麗時代の芸術への誘い－伝統音楽と舞踊」と題して実施した。（9月 4 日（金） 大阪市中央公会堂大集会室）

(4) ボランティアによるガイド事業

特集展の会期中、土・日・祝日の午前と午後にボランティアによるギャラリーガイドを行った。計 60 回、参加者計 565 人

また、平日については、団体見学者の入館に際しガイド予約のあった場合にギャラリーガイドを実施した。計 13 回、参加者計 214 人

このボランティアガイド登録者 22 名に対し、ガイド事業の充実を図るため、展覧会ごとに学芸員が研修を行っている。また、平成 27 年度は、新たに第 5 期の募集を行い、11人の新ボランティアを採用した。新ボランティアには 28 年度の活動にむけて、6 回（4 日間）の事前研修を行った。

5. 各種団体との連携

協会の各館・所との連携強化を図るとともに、各種団体、学校等との連携により、効果的な広報活動と入館者へのサービスの充実を図った（ポスター、チラシ、パンフレットの交換設置、掲載協力、相互情報提供等）。また、中央公会堂、中之島図書館、国立国際美術館、国際会議場等と連携し、水都大阪、中之島まつりなど中之島地域の活性化につながるイベントにも協力した。

## 6. 他の博物館等との連携

国内外の美術館、博物館、研究機関等との多角的な連携による共同研究、展覧会の共催、シンポジウム・研究会の開催等の事業協力を実行した。

- ① ベルリン国立アジア美術館への長期貸出の継続
- ② 台北・國立故宮博物院南院の開館特別展への貸出及び開催協力
- ③ サントリー美術館・瀬戸市美術館との特別展「没後100年 宮川香山」の開催協力等

## 7. 情報発信・広報宣伝

ホームページ、館案内パンフレット、年間展示予定、ポスター・チラシ、マス・メディアの活用などにより、東洋陶磁美術館の活動を広く周知した。グーグル・アートなどとの提携により、優れたコレクションを世界に向けて情報発信した。ホームページの年間アクセス数は702,125件であった。

そのほか、入館者に対するアンケート調査を展覧会ごとに実施し、入館者のニーズを把握して事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かした。

## 8. 来館者サービスの向上

大阪市による屋上防水改修工事休館中、28年度より館内で「大阪Free wifi」を利用できるようにLAN工事などを行った。同時に、音声ガイドと外国語(英・中・韓)による作品解説等からなるBeacon送信機を利用した実証実験用スマートフォンアプリを作成した。実証実験は、28年度を通じて行う。

光のルネサンス期間中には19時までの開館時間延長を行い周辺のイベントとの連携を図った。

館内にある喫茶ではバラの見頃を迎える5月と周辺が賑わう光のルネサンス期間にはオープンカフェを実施した。

受付窓口に寄せられる要望やアンケート調査結果などをもとに、市民の生の声を的確に美術館運営や展覧会に反映させ、来館者のサービスの向上に努めた。

## 9. 施設の維持管理

入館者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、建物設備の維持保全をはじめ、電気、機械設備などの定期点検等を実施し適切な維持管理に努めた。

また、展示室内のブラインド、休憩室のロールブラインド、経年劣化していた展示ケースのガラス戸当たりゴム、作品検索システム用パソコンなどを更新し、来館者サービスの向上を図った。

なお、大阪市の工事であるが、26年度に外壁修繕工事、27年度に屋上防水工事が竣工し、建物外部の修繕は完了した。

警備・清掃及び設備等の保守点検を外部委託し、安全・快適な施設の維持管理に努めた。職員による日常的な安全点検も励行し、職場安全衛生委員会の職場巡視も行っている。防災対策では、館職員だけでなく、警備、設備、看護・受付などの業務委託従事者や喫茶の従事者も一体となって避難訓練を実施し、有機的かつ効果的な防災体制の充実を図った。

## **10. 出版等事業**

展覧会図録（特別展「黄金時代の茶道具－17世紀の唐物」、特別展「新発見の高麗青磁－韓国水中考古学成果展」）の製作販売を行い、継続的に館蔵品図録（「東洋陶磁の美」、「堀尾幹雄コレクション濱田庄司」、「掌中の美 沖正一郎コレクション鼻煙壺」など）やミュージアムグッズの販売を行った。

## **11. 友の会事業**

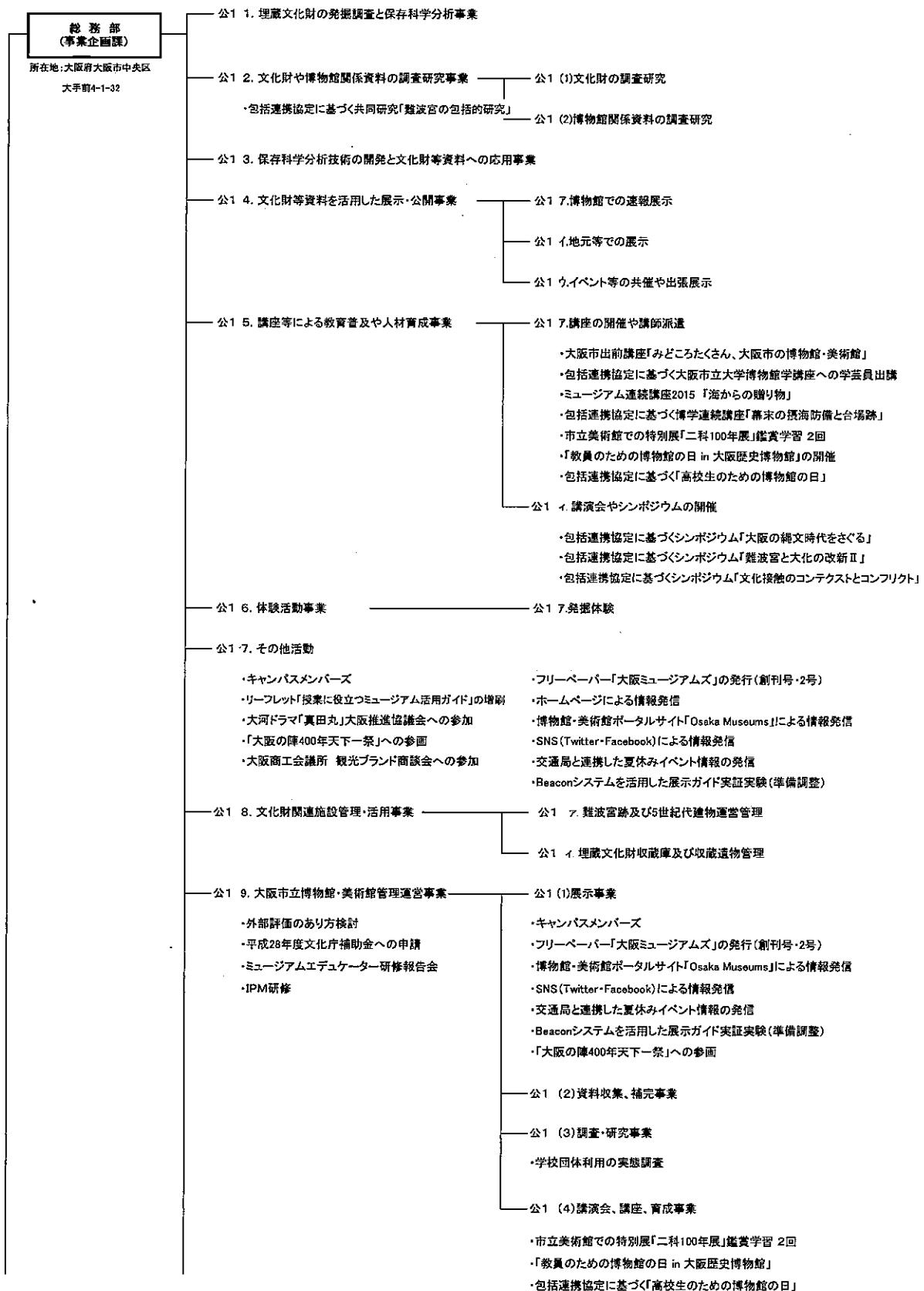
講演会、研究会、研修や「友の会通信」の発行などを通して会員へ東洋陶磁に関する情報提供等を行う一方、美術館の利用促進や普及活動などに会員の協力を求めるなど相互連携を図った。

平成27年度[公益事業対照表]

1. 総務部事業企画課

| 各部門との連携について   |   |  |  |                                       |                                   |                              |                       |                       |               |
|---|---|--|--|---------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------|-----------------------|-----------------------|---------------|
| 1   | 2   | 3  | 4  | 5                                     | 6                                 | 7                            | 8                     | 9                     |               |
| 当協会公益事業等の一覧   | 事業報告書の事業名   |  |  |                                       |                                   |                              |                       |                       |               |
| 埋蔵文化財の発掘調査と保存科学分析事業   | 文化財や博物館関係資料の調査研究  | 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用   | 文化財等による教育普及や人材育成事業   | 公1-ウ美術研究所による人材育成                      | 公1-ツ学校等を对象として実物制作体験               | 公1-イ講演会やシンポジウムの開催            | 公1-ア博物館での巡回展示         | 公1-イ埋蔵文化財収蔵倉庫及び収蔵遺物管理 |               |
| 公1-6学習支援事業  | 公1-7調査・研究事業   | 公1-8資料収集・保管事業  | 公1-9展示事業   | 公1-10保管事業                             | 公1-11特別展示等                        | 公1-12運営事業                    | 公1-13運営事業             | 公1-14休憩料金・講座・音楽事業     |               |
| 1. 広報発信事業   | 2. 民間事業者との連携、民間ノウハウの活用                                  | 3. 「大阪の陣400年天下一祭」への参加  | 4. 教育普及に関する連携  | 5. 研究事業                               | 6. 体験等活動事業                        | 7. その他活動事業                   | 8. 文化財関連施設運営・管理       | 9. 大阪市立博物館 美術館管理運営事業  |               |
| フリーペーパー「大阪ミュージアム」の発行(創刊号~2号)<br>ホームページによる情報発信<br>博物館・美術館ポータルサイト「Osaka Museums」による情報発信<br>SNS(Twitter・Facebook)による情報発信<br>交通局と連携した夏休みイベント情報の発信 | Beaconシステムを活用した展示ガイド実証実験(準備調整)<br>大阪商工会議所 紛争ブランド商談会への参加 | 参加エントリーおよび開催展示賞の開催   | (1)小・中学校との連携<br>学校団体利用の実態調査(通年)<br>市立美術館での特別展「二科100年展」鑑賞学習 2回<br>「教員のための博物館の日 in 大阪歴史博物館」の開催<br>リーフレット「授業に役立つミュージアム活用ガイド」の増刷 | 公1-1(2)資料収集・保管事業の調査研究<br>公1-1文化財の調査研究 | 公1-1ウェブサイト等の共催や出張展示<br>公1-2地元での展示 | 公1-3研究会<br>公1-4講演会やシンポジウムの開催 | 公1-5講座の開催や講師派遣        | 公1-6埋蔵文化財収蔵倉庫及び収蔵遺物管理 |               |
| 全館所   | 全館所   | 全館所  | 全館所  | 全館所                                   | 東                                 | 西                            | 全館所                   | 全館所                   |               |
| 2. 民間事業者との連携、民間ノウハウの活用  | 3. 「大阪の陣400年天下一祭」への参加                                   | 4. 教育普及に関する連携  | 5. 研究事業  | 6. 体験等活動事業                            | 7. その他活動事業                        | 8. 文化財関連施設運営・管理              | 9. 大阪市立博物館 美術館管理運営事業  | 10. 各部門との連携について       |               |
| Beaconシステムを活用した展示ガイド実証実験(準備調整)<br>大阪商工会議所 紛争ブランド商談会への参加   | 参加エントリーおよび開催展示賞の開催                                      | (1)小・中学校との連携<br>学校団体利用の実態調査(通年)<br>市立美術館での特別展「二科100年展」鑑賞学習 2回<br>「教員のための博物館の日 in 大阪歴史博物館」の開催<br>リーフレット「授業に役立つミュージアム活用ガイド」の増刷 | 公1-1(2)資料収集・保管事業の調査研究<br>公1-1文化財の調査研究  | 公1-1ウェブサイト等の共催や出張展示<br>公1-2地元での展示     | 公1-3研究会<br>公1-4講演会やシンポジウムの開催      | 公1-5講座の開催や講師派遣               | 公1-6埋蔵文化財収蔵倉庫及び収蔵遺物管理 | 公1-7調査・研究事業           | 公1-8資料収集・保管事業 |
| 全館所   | 全館所   | 全館所  | 全館所  | 全館所                                   | 東                                 | 西                            | 全館所                   | 全館所                   |               |
| 5. 点検評価   | 6. 外部資金の獲得  |  |  |                                       |                                   |                              |                       |                       |               |
| 外部評価のあり方検討  | 平成28年度文化庁補助金への申請  |  |  |                                       |                                   |                              |                       |                       |               |
| 全館所   | 全館所   |  |  |                                       |                                   |                              |                       |                       |               |

## 平成27年度 事業・組織体系図



**平成27年度[公益事業対照表]**

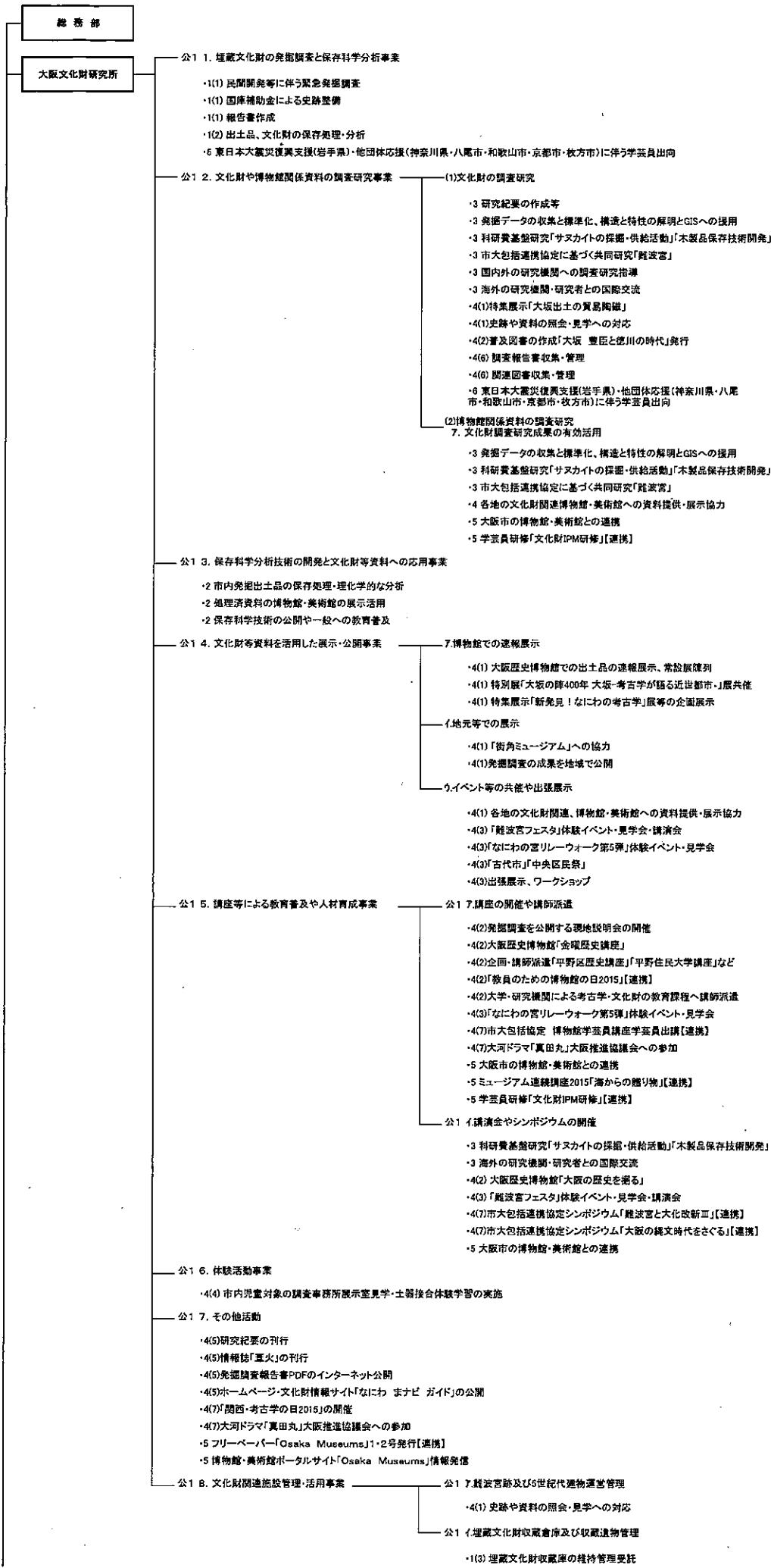
**2. 大阪文化財研究所**

| 当協会公益事業等の一覧               |           | 公1   |   |   |   |   |   |   |  |   |          |               |             | 収1             | 他1         |            |
|---------------------------|-----------|--|---|---|---|---|---|---|--|---|----------|---------------|-------------|----------------|------------|------------|
| 事業報告書の事業名                 | 事業報告書の事業名 | 1. 墓園文化財の発掘調査・報告書作成  | 2. 文化財や博物館・美術館管理等の実務研究  | 3. 保存科学分析技術の開発と活用   | 4. 文化財調査研究の実践と発信                            | 5. 調査等による教育普及及び人材育成   | 6. 体験活動事業                                   | 7. その他活動  | 8. 文化財関連施設管理・活用事業  | 9. 大阪市立博物館・美術館管理等の実務研究  | (1) 展示事業 | (2) 資料収集・保存事業 | (3) 講演・研究事業 | (4) 演劇・音楽・音成事業 | (5) 体験学習事業 | (6) 学習指導事業 |
| 1. 墓園文化財の発掘調査・報告書作成       |           | (1) 文化財調査受託事業<br>民間開発等による緊急発掘調査<br>国庫補助金による史跡整備<br>報告書作成   | (2) 保存処理・分析事業<br>出土品・文化財の保存処理・分析  | (3) 文化財関連施設の管理事業<br>埋蔵文化財収蔵庫の維持管理受託   |   |   |   |   |  |   |          |               |             |                |            |            |
| 2. 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用 |           |  |   |   |   |   |   |   |  |   |          |               |             |                |            |            |
| 3. 文化財に関する研究              |           |  |   |   |   |   |   |   |  |   |          |               |             |                |            |            |
| 4. 教育・普及事業                |           | (1) 展示等をはじめとする資料活用<br>大阪歴史博物館での出土品の遠隔展示、常設展陳列<br>特別展「大阪の400年 大坂・考古学が語る近世都市」[展覧会]<br>特業展示「新発見！ なにわの考古学」[展覧会]<br>特業展示「大阪出土の貿易陶磁」<br>各地の文化財関連博物館・美術館への資料提供、展示協力<br>「街角ミュージアム」への協力<br>発掘調査の成果を地域で公開<br>史跡や資料の『見学会』への対応 | (2) 調査等による教育普及や人材育成<br>発掘調査を公認する現地説明会の開催<br>大阪歴史博物館「金環歴史講座」<br>大阪歴史博物館「大阪の歴史を語る」<br>音楽団体の制作「大阪・堺と徳川の時代」発行<br>企画・講師派遣「平野区歴史講座」「平野住民大学講座」など<br>「教員のための博物館の日2015」[選択]<br>大学・研究機関による考古学・文化財の教育課程へ講師派遣 | (3) 地域連携イベント等の実施・出張展示<br>「難波宮フェスタ」体験イベント・見学会・講演会<br>「なにわの宮リレー オーク第3弾」体験イベント・見学会<br>「古代市」「中央区民祭」<br>出張展示、ワークショップ | (4) 体験活動事業<br>市内児童対象の調査事務所展示室見学・土器接合体験学習の実施 | (5) 情報発信<br>HPの充実、各種情報発信<br>研究記録の刊行<br>情報誌「薪火」の刊行<br>発掘調査結果PDFのインターネット公開<br>ホームページ・文化財情報サイト「なにわナビ ガイド」の公開 | (6) 関連資料の収集・管理<br>調査報告書の収集・整理<br>関連図書の収集・管理 | (7) 地団体との連携<br>「蘭西・考古学の日2015」の開催<br>市大包括連携協定シンポジウム「難波宮と大化改新Ⅲ」[連携]<br>市大包括連携協定シンポジウム「大阪の萬葉時代をさぐる」[連携]<br>市大包括連携協定 博物館学芸員講座学芸員出講[連携]<br>大河ドラマ「真田丸」大阪推進協議会への参加 | (8) 博物館・美術館との連携<br>大阪市の博物館・美術館との連携<br>ミュージアム連携講座2015「海からの贈り物」[連携]<br>フリーペーパー「Osaka Museums」・2号発行[連携]<br>博物館・美術館ポータルサイト「Osaka Museums」情報発信<br>学芸員研修「文化財IPM研修」[連携] | (9) 東日本大震災復興支援などを主な出向<br>東日本大震災復興支援(岩手県)・地団体応援(神奈川県・八戸市・和歌山市・京都府・枚方市)に伴う学芸員出向 |          |               |             |                |            |            |

対や見友会員の全員が会員に対して行う講演会などを行ふことを目的とする事業

と上選天阪守護町からその管理運営者を委託して、公募の会員が目的的施設の運営の方法全般に及ぶものである。

平成27年度 事業・組織体系図



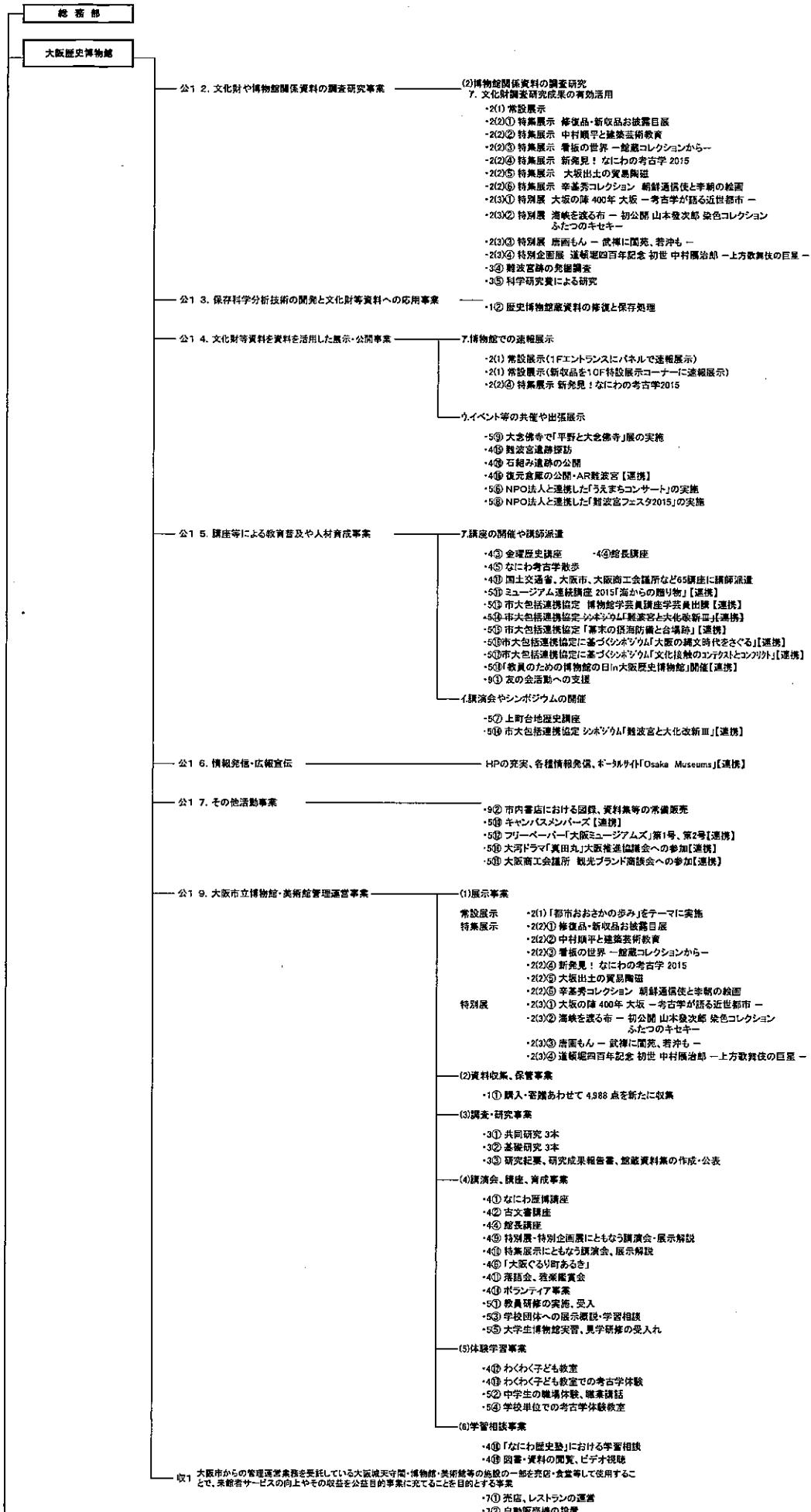
## 平成27年度[公益事業対照表]

### 3. 大阪歴史博物館

| 当協会公益事業等の一覧     |  |  |   |   |   |  |   |  |  | 収1 | 地1 |
|-----------------|--|--|---|---|---|--|---|--|--|----|----|
| 事業報告書の事業名       |  |  |   |   |   |  |   |  |  |    |    |
| 1. 資料の収集        | ①購入、寄贈あわせて4,888点を新たに収集<br>②施設資料の修復と保存処理の実施   |  |   |   |   |  |   |  |  | ○  |    |
| 2. 展示事業         | (1)常設展示<br>(2)特集展示<br>①修復品・新収品お披露目展<br>②中村順二と難波宮跡考古学<br>③香坂の世界—船団コレクションから—<br>④新発見！なにわの考古学 2015<br>⑤大阪出土の貨易陶磁<br>⑥辛基秀コレクション 朝鮮通信使と李朝の絵画<br>(3)特別展・特別企画展<br>①大阪の陣 400年 大阪—考古学が語る近世都市—<br>②海賊を派する市—初公開 山本發次郎 兵物コレクション<br>ふたたびのキセキ<br>③唐物もん—京洛に蘭菴、若沖も—<br>④道頓堀四百年記念 初世 中村順治郎—上方歌舞伎の巨業—<br>(5)調査研究<br>①共同研究<br>②基礎研究<br>③研究結果、研究成果報告書、雑誌資料集の作成・公表<br>④施設調査<br>⑤科学的研究による研究  |  | ○ | ○ |   |  | ○ |  |  |    |    |
| 3. 調査・研究事業      | ①保存科学分析技術の開発と文化財等保存材料への応用事業<br>②陶磁器をはじめとする美術関係資料の調査研究<br>③文化財調査研究事業の有効活用<br>(1) 文化財や博物館関係資料の調査研究<br>(2) 博物館関係資料の調査研究   |  |   |   |   |  |   |  |  | ○  |    |
| 4. 教育・普及事業・学習支援 | ①なにわ歴博講座<br>②古文書講座<br>③近隣歴史講座<br>④歴史講座<br>⑤なにわ考古学散歩<br>⑥なにわ歴史あるき<br>⑦大阪アジアン映画祭<br>⑧映画鑑賞会<br>⑨特別展・特別企画展にもなう講演会、展示解説<br>⑩特集展示にともなう講演会、展示解説<br>⑪講習会、授業鑑賞会<br>⑫なにわ子ども教室<br>⑬なにわ子ども教室での考古学体験<br>⑭ボランティア事業<br>⑮難波遺跡探訪<br>⑯復元倉庫の公開・AR難波宮の宮<br>⑰区役所等への講師派遣<br>⑲なにわ歴史塾での学習相談<br>⑳なにわ歴史塾での図書・資料の閲覧、ビデオ視聴<br>㉑組み道標の公開・AR難波宮   |  |   |   |   |  |   |  |  | ○  |    |
| 5. 学校           | 市民等との連携<br>①教員研修<br>②学生の座談会・収集講話<br>③学校団体への展示解説・学習相談<br>④学校単位での考古学体験教室<br>⑤大学生博物館実習・見学研修<br>⑥うえまちコンサート<br>⑦上町台地歴史講座<br>⑧難波宮フロスター<br>⑨平野山大念佛寺」展<br>⑩キャンバスショーバース【連携】<br>㉑ミュージアム連携講座2015「海からの贈り物」【連携】<br>㉒フリーペーパー「大阪ミュージアムズ」第1号、第2号【連携】<br>㉓市大包括連携協定 博物館学芸員講座学芸員出講【連携】<br>㉔市大包括連携協定 シラッカ「難波宮と大化改新Ⅱ」【連携】<br>㉕市大包括連携協定博物館連携講座「幕末の浜海防備と台場跡」【連携】<br>㉖市大包括連携協定「高島シミズ」、「大阪の絵文時代をさぐる」【連携】<br>㉗市大包括連携協定「高島シミズ」、「文化復興のリソースヒヤウ」【連携】<br>㉘教員のための博物館のEtn大阪歴史博物館の研修【連携】<br>㉙大河ドラマ「真田丸」大阪推進協議会への参加【連携】<br>㉚大阪商工会議所 雅光ブランド商談会への参加【連携】 |  |   |   |   |  |   |  |  | ○  |    |
| 6. 情報発信・広報発信    | HPOの充実、各種情報発信、ホームページ「Osaka Museum」【連携】   |  |   |   |   |  | ○ |  |  |    |    |
| 7. 受託者サービスの向上   | ①レストラン、売店の運営委託<br>②自動販売機の設置<br>室内サインの改善、わかりやすい解説、観覧者に配慮した環境作り  |  |   |   |   |  |   |  |  | ○  |    |
| 8. 施設の維持管理      |  |  |   |   |   |  |   |  |  | ○  |    |
| 9. 友の会 その他独自事業  | ①友の会活動への支援<br>②市内書店での因縁堂販売   |  |   |   | ○ |  |   |  |  | ○  |    |

益どりの生産性を高め、に対する金額で行なう講演会や講座、研究会、見学会、開催することを目的とする事業。  
大阪府は、これらの管理運営業務を委託している大阪府が守ることで、博物館、美術館などの施設の向上やそれを充実させることを目的とする事業に充てることを目的とする。

平成27年度 営業・組織体系図



収1 大阪市からの管理運営業務を委託している大阪城天守閣・博物館・美術館等の施設の一都を売店・食堂等して使用することとされ、来館者サービスの向上やその収益を公益目的事業に充てることを目的とする

- ・1①売店、レストランの運営
- ・7②自動販売機の設置

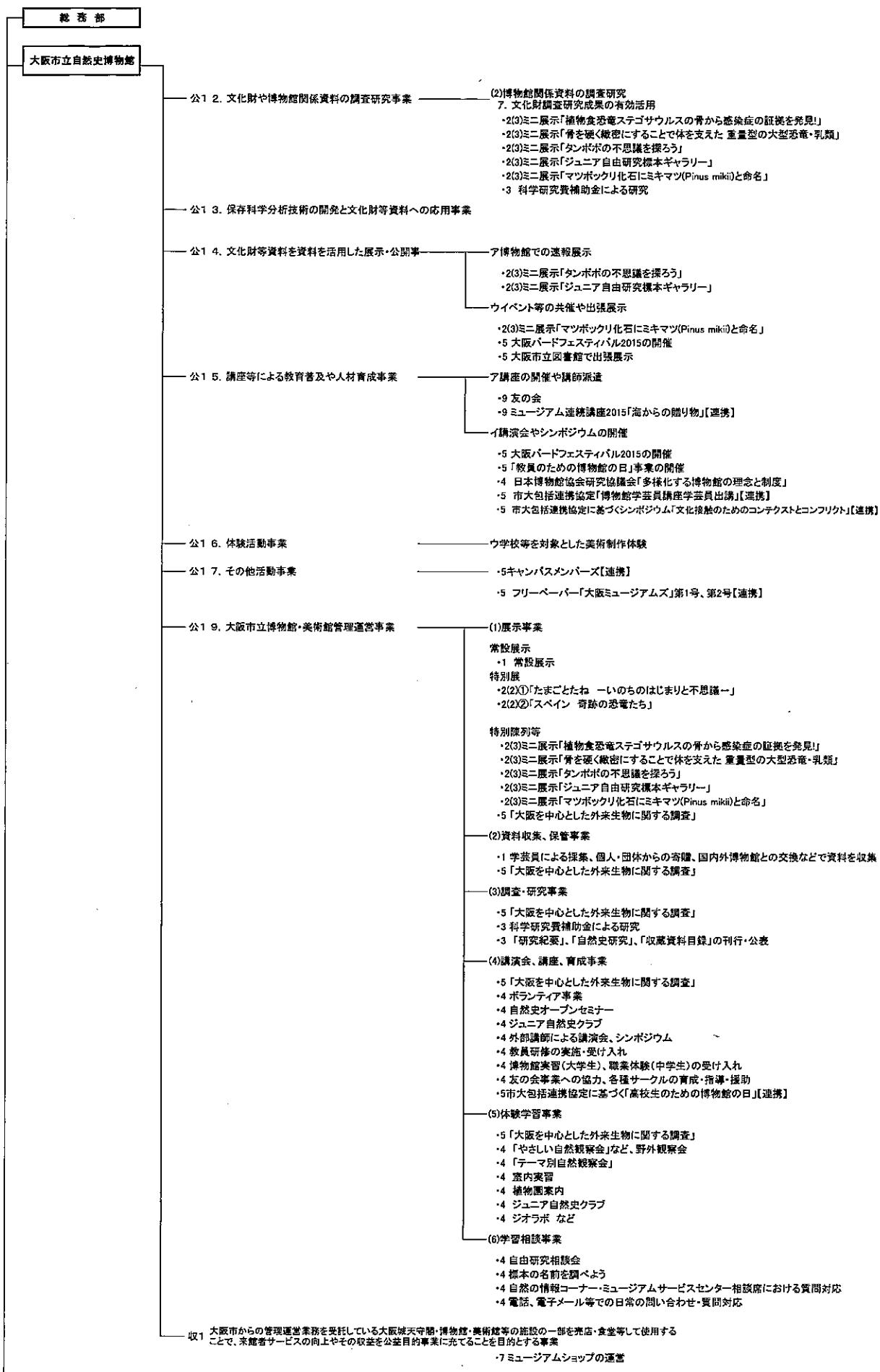
**平成27年度[公益事業対照表]**

**4. 大阪市立自然史博物館**

| 公1                                     |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   | 取引<br>他1 |  |
|--|------------------------|---|-----------|--|--|---|---|--|---|---|----------|--|
| 当協会公益事業等の一覧                            | 9<br>大阪市立博物館・美術館総理運営事業 | (1) 展示事業<br>ア、常設展示<br>(2) 資料収集・保管事業<br>(3) 調査・研究事業<br>(4) 慶祝会・講座・実演事業<br>(5) 体験学習事業<br>(6) 学生招請事業<br>(7) 公開講座<br>(8) 文化財関連施設管理・活用事業<br>(9) その他活動事業<br>(10) ワークショップ事業<br>(11) イベント事業<br>(12) 記念品販売<br>(13) 特別展示等 | 事業報告書の事業名 |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 事業報告書の事業名                              |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 1. 資料の収集、保管事業                          |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| ■資料による収集、個人・団体からの寄附、国内外有機体との交換などで資料を収集 |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 2. 展示事業                                |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| (1) 常設展示                               |                        |   |           |  |  |   |   |  | ○ |   |          |  |
| (2) 特別展示                               |                        |   |           |  |  |   |   |  | ○ |   |          |  |
| ①「たまごとね　一いのちはじまりと不思議」                  |                        |   |           |  |  |   |   |  | ○ |   |          |  |
| ②「スペイン　奇跡の恐竜たち」                        |                        |   |           |  |  |   |   |  | ○ |   |          |  |
| (3) 特別陳列等                              |                        |   |           |  |  |   |   |  | ○ |   |          |  |
| ミニ展示「植物食恐竜ステゴザウルスの骨から感染症の歴史を発見!」       |                        |   |           |  |  |   |   |  | ○ |   |          |  |
| ミニ展示「骨を極く緻密にすることで体を支えた 重量型の大型恐竜・乳頭」    |                        |   |           |  |  |   |   |  | ○ |   |          |  |
| ミニ展示「タガボの不思議を探ろう」                      |                        |   |           |  |  | ○ |   |  | ○ |   |          |  |
| ミニ展示「マツボックリ化石にミキマツ(Pinus miki)と命名」     |                        |   |           |  |  | ○ |   |  | ○ |   |          |  |
| ミニ展示「ジュニア自由研究標本ギャラリー」                  |                        |   |           |  |  | ○ |   |  | ○ |   |          |  |
| 3. 調査研究事業                              |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 科学研究費補助金による研究                          |                        |   |           |  |  |   |   |  | ○ |   |          |  |
| 「研究室見学会」「自然史研究」「収蔵資料目録」の刊行・公示          |                        |   |           |  |  |   |   |  | ○ |   |          |  |
| 4. 教育・普及事業                             |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 「やさしい自然観察会」                            |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| 「テーマ別自然観察会」                            |                        |   |           |  |  |   |   |  | ○ |   |          |  |
| 室内実習                                   |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| 植物園案内                                  |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| ジャーナル自然史クラブ                            |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| ジオラボ など                                |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| ボランティア募集                               |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| 自然史オープンセミナー                            |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| 外部講師による講演会、シンポジウム                      |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| 教員研修の実施・受け入れ                           |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| 博物館実習(大学生)、職業体験(中学生)の受け入れ              |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| 日本博物館協会研究協議会「多様化する博物館の理念と制度」           |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 友の会事業への協力、各種サークルの育成・指導・援助              |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   | ○        |  |
| 自由研究相談会                                |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   | ○        |  |
| 標本の名前を調べよう                             |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| 自然の情報コーナー・ミュージアムサービスセンター相談窓口における質問対応   |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| 電話、電子メール等での日常の問い合わせ・質問対応               |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ |          |  |
| 5. 学校・市民等との連携                          |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 「大阪を中心とした外来生物に関する調査」                   |                        |   |           |  |  |   |   |  |   | ○ | ○        |  |
| 大阪バードエコスピア2015                         |                        |   |           |  |  |   |   |  | ○ |   |          |  |
| 大阪市立図書館で出張展示                           |                        |   |           |  |  |   | ○ |  |   |   |          |  |
| 「教員のための博物館の日」                          |                        |   |           |  |  |   | ○ |  |   |   |          |  |
| 市大包括連携協定・博物館学芸員講座出席者賞出課【連携】            |                        |   |           |  |  |   | ○ |  |   |   |          |  |
| 市大包括連携協定に基づいて「高校生のための博物館の日【連携】         |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 市大包括連携協定に基づいて「文化博物館のためのコレクションヒヤウリ」(連携) |                        |   |           |  |  |   | ○ |  |   |   |          |  |
| ミュージアム連続講座2015「海からの贈り物」(連携)            |                        |   |           |  |  |   | ○ |  |   |   |          |  |
| キャンパスマーケット【連携】                         |                        |   |           |  |  |   | ○ |  |   |   |          |  |
| フリーペーパー「大阪ミュージアムズ」第1号、第2号(連携)          |                        |   |           |  |  |   | ○ |  |   |   |          |  |
| *                                      |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 6. 情報発信・広報宣传                           |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| ホームページの充実、各種情報発信、ホームページ【連携】            |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 7. 参訪者サービスの向上                          |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 案内サインの改善、わかりやすい解説等、観覧者に記述した環境作り        |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| ミュージアムショップの運営                          |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 8. 施設の維持管理                             |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 9. 友の会                                 |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |
| 友の会活動支援                                |                        |   |           |  |  |   |   |  |   |   |          |  |

東京支会などの全国会員に於して行なわれる各種販賣会や講演会、奨奵会、見学会等の会員活動を実施することを目的とする。また、大阪府やその他の各都道府県を主とする公的機関が主催する各種の会議等に於ける事務手配等である。

## 平成27年度 事業・組織体系図



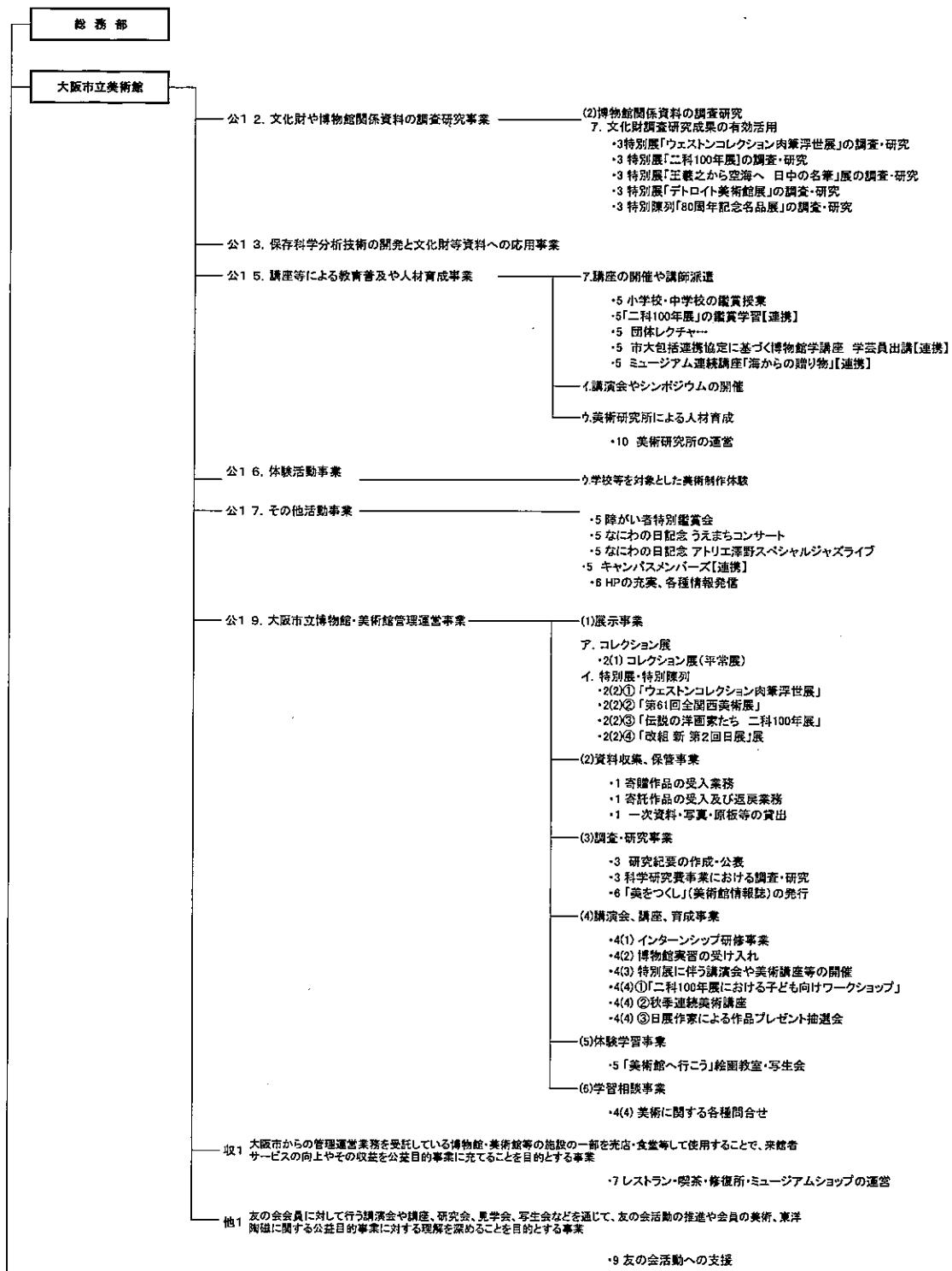
収1 大阪市からの管理運営業務を受託している大阪城天守閣・博物館・美術館等の施設の一部を売店・食堂等として使用することことで、来館者サービスの向上やその収益を公益目的事業に充てることを目的とする事業

・7 ミュージアムショップの運営

## 平成27年度[公益事業対照表]

## 5. 大阪市立美術館

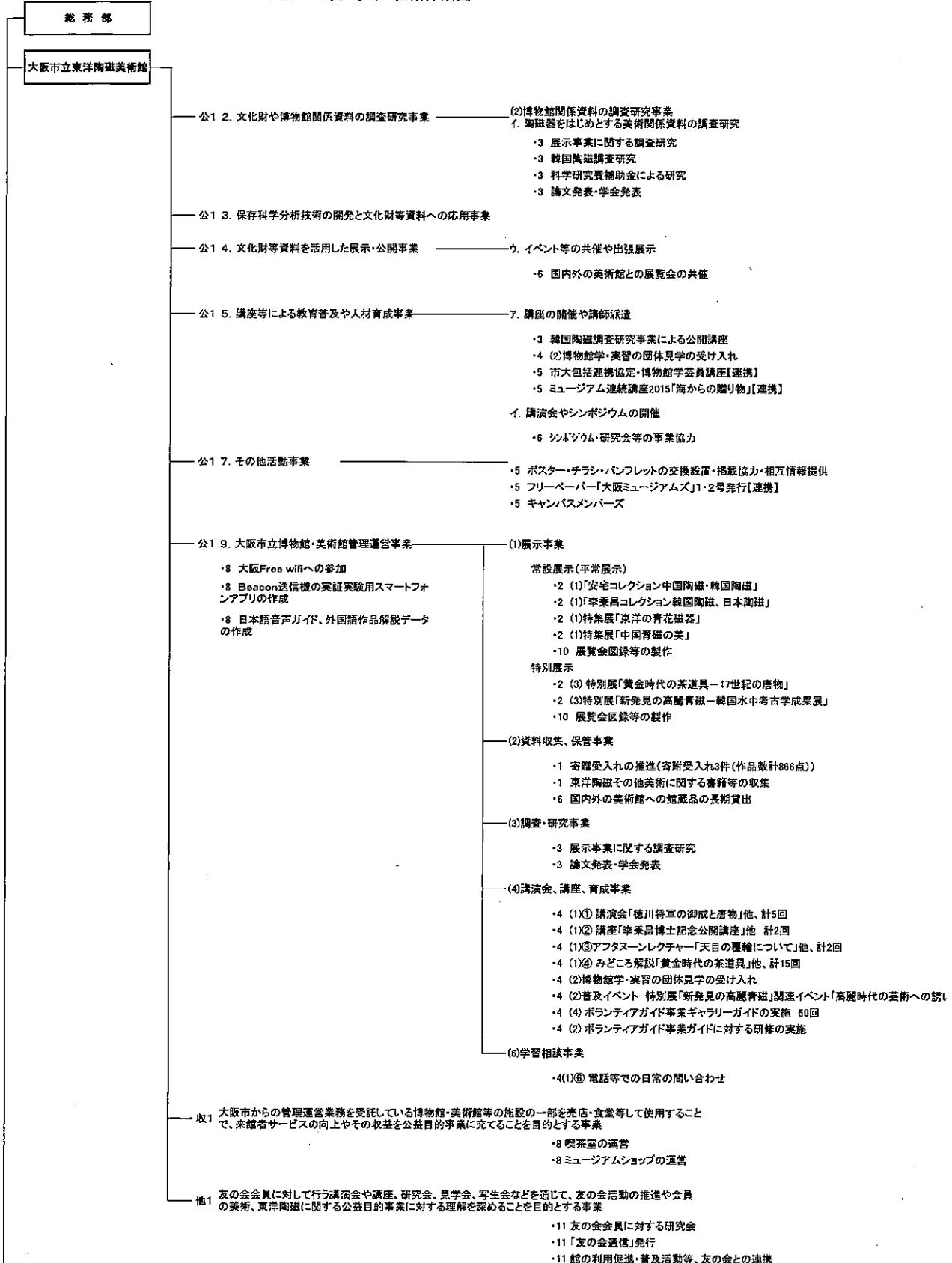
平成27年度 事業・組織体系図



### 平成27年度[公益事業対照表]

## 6. 大阪市立東洋陶磁美術館

## 平成27年度 事業・組織体系図



## 8. 処務

### (1) 処務事項

|                |            |
|----------------|------------|
| 第1回理事会（決議の省略）  | 平成27年4月1日  |
| 第2回理事会（決議の省略）  | 平成27年5月1日  |
| 第1回評議員会（決議の省略） | 平成27年5月14日 |
| 第3回理事会         | 平成27年6月9日  |
| 第2回評議員会        | 平成27年6月24日 |
| 第4回理事会（決議の省略）  | 平成27年8月7日  |
| 第3回評議員会（決議の省略） | 平成27年8月21日 |
| 第5回理事会         | 平成28年3月22日 |

### (2) 理事会及び評議員会に関する事項

| 会議名     | 開催年月日      | 開催場所／開催方法 | 議題  |
|---------|------------|-----------|---|
| 第1回理事会  | 平成27年4月1日  | 決議の省略     | <p>第1号議案<br/>事務局長の任命にかかる理事の意思表示について<br/>事務局長に就任するもの 大上一光（（公財）大阪市博物館協会総務部長）<br/>事務局長の就任年月日 平成27年4月1日<br/>就任役職 公益財団法人大阪市博物館協会事務局長</p>   |
| 第2回理事会  | 平成27年5月1日  | 決議の省略     | <p>第1号議案<br/>平成27年度第1回評議員会の開催について<br/>(1) 開催方法 決議の省略により開催する<br/>(2) 議題 評議員の選任、理事の選任について</p> <p>第2号議案<br/>森本充博評議員の辞任に伴う後任評議員として小川芳和氏を候補者とすること</p> <p>第3号議案<br/>坂井秀弥氏を評議員の候補者とすること</p> <p>第4号議案<br/>西良文理事の辞任に伴う後任理事として大上一光氏を候補者とすること</p> <p>第5号議案<br/>栄原永遠男氏を理事の候補者とすること</p>  |
| 第1回評議員会 | 平成27年5月14日 | 決議の省略     | <p>第1号議案<br/>坂井秀弥氏を評議員に選任すること<br/>就任予定日は、平成27年6月1日</p> <p>第2号議案<br/>森本充博評議員の辞任に伴う後任として小川芳和氏を評議員に選任すること<br/>就任予定日は、平成27年6月1日</p> <p>第3号議案<br/>栄原永遠男氏を理事に選任すること<br/>就任予定日は、平成27年6月1日</p> <p>第4号議案<br/>西良文理事の辞任に伴う後任として大上一光氏を理事に選任すること<br/>就任予定日は、平成27年6月1日</p> <p>報告事項<br/>谷田一三評議員の辞任による後任者の選任は行わないこと、よって新任評議員が選任された後の評議員数は8名となり、（公財）大阪市博物館協会定款第10条（評議員の定足数）により定足数5名以上10名以内を満たしていることを報告します。</p> |

| 会議名     | 開催年月日      | 開催場所／開催方法 | 議題   |
|---------|------------|-----------|--|
| 第3回理事会  | 平成27年6月9日  | 大阪歴史博物館   | 第1号議案<br>専務理事の選定について<br>第2号議案<br>平成26年度事業報告について<br>第3号議案<br>平成26年度決算について<br>第4号議案<br>評議員会の招集について<br>第5号議案<br>平成27年度経営目標について<br>報告事項<br>職務執行の状況について |
| 第2回評議員会 | 平成27年6月24日 | 大阪歴史博物館   | 第1号議案<br>平成26年度決算について<br>報告事項1<br>評議員・理事の選任、専務理事の選定について<br>報告事項2<br>平成26年度事業報告について<br>報告事項3<br>平成27年度経営目標について                                      |
| 第4回理事会  | 平成27年8月7日  | 決議の省略     | 第1号議案<br>平成27年度第3回評議員会の開催について<br>(1) 開催方法 決議の省略により開催する<br>(2) 議題 「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」の一部改正について   |
| 第3回評議員会 | 平成27年8月21日 | 決議の省略     | 第1号議案<br>「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」の一部改正について   |
| 第5回理事会  | 平成28年3月22日 | 大阪歴史博物館   | 第1号議案<br>経営計画の策定について<br>第2号議案<br>平成28年度事業計画について<br>第3号議案<br>平成28年度予算について<br>報告事項<br>職務執行の状況について  |

### (3) 理事及び監事一覧

平成28年3月31日現在

|      |         |                        |
|------|---------|------------------------|
| 理事長  | 楞 川 義 郎 | (公益財団法人大阪市博物館協会理事長)    |
| 専務理事 | 大 上 一 光 | (公益財団法人大阪市博物館協会事務局長)   |
| 理 事  | 石 垣 忍   | (岡山理科大学生物地球学部生物地球学科教授) |
| 理 事  | 栄 原 永遠男 | (大阪歴史博物館長)             |
| 理 事  | 谷 直 樹   | (大阪市立住まいのミュージアム館長)     |
| 理 事  | 長 山 雅 一 | (流通科学大学名誉教授)           |
| 理 事  | 福 永 伸 哉 | (大阪大学大学院文学研究科教授)       |
| 監 事  | 伊 藤 由之助 | (税理士)                  |
| 監 事  | 島 村 美 樹 | (弁護士)                  |

### (4) 評議員一覧

平成28年3月31日現在

|     |         |                         |
|-----|---------|-------------------------|
| 評議員 | 安 藤 則 男 | (公認会計士)                 |
| 評議員 | 小 川 芳 和 | (大阪市教育委員会事務局総務部長)       |
| 評議員 | 鍔 持 英 樹 | (大阪市経済戦略局博物館改革担当部長)     |
| 評議員 | 坂 井 秀 弥 | (奈良大学文学部文化財学科教授)        |
| 評議員 | 武 田 佐知子 | (追手門学院大学地域創造学部地域創造学科教授) |
| 評議員 | 中 島 将 貴 | (三井住友銀行総務部部長)           |
| 評議員 | 松 崎 和 義 | (N H K 大阪放送局副局長)        |
| 評議員 | 山 梨 俊 夫 | (国立国際美術館長)              |